

福津市教育委員会の事務に関する点検・評価報告書
(平成30年度事業)

令和2年3月

福津市教育委員会

この報告書は、効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民への説明責任を果たしていくために、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条の規定に基づき、平成30年度の教育委員会の事務、主に福津市教育ドリームプランに関して点検及び評価を行ったものです。

また、点検及び評価にあたっては、外部有識者の意見を取り入れ、事業の項目ごとに4段階の評価を明示しています。

今後、さらに点検及び評価のあり方の工夫に努め、これからの教育行政に反映させるとともに、継続的に事務事業の改善を図ります。

○地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第3項の規程により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うにあたっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

目 次

1 福津市教育委員会の事務に関する点検・評価について	・・・ 3
1) 趣旨	
2) 点検及び評価の対象	
3) 実施方法について	
4) 報告書の作成	
2 教育委員会の活動状況	・・・ 5
1) 総合教育会議の開催及び運営状況	
2) 教育委員会会議の開催状況	
3) 教育委員会の権限に属する事務の審議状況	
3 事務事業の取組状況と点検及び評価	・・・ 8
・各施策の取組状況	
◇施策1. コミュニティ・スクールの発展	・・・ 8
◇施策2. 学力向上の推進	・・・ 9
◇施策3. 学校における教育環境の整備	・・・ 10
◇施策4. 今日的課題に対応した教育の充実	・・・ 11
◇施策5. 生涯学習の充実、地域・家庭の教育力向上	・・・ 11
◇施策6. 子どもの体験活動の充実	・・・ 12
◇施策7. スポーツ文化芸術活動の充実	・・・ 13
・平成30年度 重点事業シート	・・・ 15
4 点検・評価に対する学識経験者からの意見	・・・ 58

1 福津市教育委員会の事務に関する点検・評価について

1) 趣旨

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」が平成20年4月1日改正施行され、効果的な教育行政の推進に資するとともに、住民への説明責任を果たしていくため、教育委員会が事務の管理・執行状況について点検・評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出し、公表することと規定されました。

どのような点検・評価項目を設けるか、また、報告書の様式、議会への報告の方法などについては、各教育委員会が実情を踏まえて決定することとされています。

福津市では、以下に掲げる項目について点検及び評価を行い、本報告書を作成しています。

2) 点検及び評価の対象

教育委員会会議の開催及び運営状況、その権限に属する事務の審議状況、また、教育長及び教育委員会事務局職員に委任された事務について、点検及び評価を行います。

3) 実施方法について

点検及び評価にあたっては、教育委員会会議の開催状況や事務事業の進捗状況等を総括するとともに、今後の施策の方向性を整理し点検及び評価を行います。また、点検及び評価については、学識経験を有する者の意見を聴取します。

①自己評価は事業ごとに下記の要領で行います。

◎：明示した目標を十分達成できた

○：目標達成に向けて順調に推移している、または、おおむね目標を達成している

△：目標達成に向けて、取組の強化が必要である

×：状況の変化等により、事業を実施できなかった

②上記①により実施した自己評価等を踏まえた学識経験者の意見を聴取します。

③点検及び評価の結果をとりまとめ報告書を作成し、本市のホームページへも掲載します。

点検及び評価の結果を踏まえ、次年度以降の教育行政に反映させます。

4) 報告書の作成

①教育行政の点検及び評価の趣旨や方法等の概要について記載します。

- ②教育委員会会議の開催及び運営状況、その権限に属する事務の審議状況や、教育委員会会議以外の活動状況について、取りまとめて記載します。
- ③教育委員会の主要施策及び事務事業を項目ごとにまとめ、教育委員会としての自己評価を記載します。
- ④外部の学識経験者に、自己点検・評価の内容・方法等にご意見を賜り、次年度以降の教育行政の事務事業の計画・実施に反映させます。

2 教育委員会の活動状況

1) 総合教育会議の開催状況

地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律（平成27（2015）年4月1日施行）により、教育委員会制度が改正され、市長と教育委員会との連携の強化を図るため、市長及び教育委員会により構成する「総合教育会議」が創設されました。

原則として毎年3回の会議を行っています。

開催日	協議事項
7月17日	福津市教育大綱の基本目標より 次世代を見通した地域の将来を担う人財育成について
10月23日	福津市教育大綱の基本目標より ①子どもの育ちを支える家庭・地域の教育力向上 ②次世代育成支援による子ども・子育て支援の環境づくりの充実
1月17日	福津市教育大綱の基本目標より ①地域の人々をつなぐ福津市型生涯学習の充実 ②文化・健康・スポーツや絆づくりによる市民生活の向上

2) 教育委員会会議の開催及び運営状況

教育委員会会議は、原則毎月1回の定例会を開催しています。また、必要が生じた際に臨時会を行っています。

平成30年度は定例会12回、臨時会2回の教育委員会会議を開催し、計37件の議案が審議されました。また、議案のほかに協議事項、報告事項に分類し、議論や事務局との意見交換・情報共有化を行いました。

3) 教育委員会の権限に属する事務の審議状況

○審議案件（37件）

教育委員会会議開催日および審議状況

開催日	議決事項
4月24日	福津市教育懇話会委員の委嘱について
	福津市学校運営協議会委員の任命について
	福津市地域学校協働活動推進員設置要綱を定めることについて
5月28日	福津市スクールカウンセラー規則を改正することについて
	福津市体育施設条例施行規則等の一部を改正する規則の制定について
6月20日	福津市図書館協議会委員の任命について
	福津市郷育推進会議委員の任命について

	福津市複合文化センター条例施行規則を改正することについて
	福津市教育支援委員会委員の委嘱について
	非常勤職員の任用について
8月1日	平成31年度使用第3地区中学校用教科用図書(道徳)の採択について
8月21日	福津市全国大会等出場奨励金交付要綱を改正することについて
	非常勤職員の任用について
	福津市立学校通学区域審議会委員の委嘱について
9月26日	福津市就学援助規則を改正することについて
	福津市就学援助規則施行規程を改正することについて
	福津市適応指導教室設置規則等の一部を改正することについて
	国指定史跡「津屋崎古墳群」整備指導委員会委員の委嘱について
	福津市教育評価委員の委嘱について
10月19日	福津市教育委員会委員の辞職の同意について
10月23日	福津市立学校防犯カメラの設置及び運用に関する要綱を制定することについて
11月22日	福津市スポーツ推進審議会委員の委嘱について
12月26日	福津市校区外通学等の運用に関する規程を改正することについて
1月17日	国指定史跡「津屋崎古墳群」整備指導委員会委員の委嘱について
	小規模校入学特別認可制度に伴う認定について
	福津市立小中学校管理規則及び福津市立幼稚園条例施行規則の一部を改正することについて
2月19日	福津市部活動指導員に関する規則を制定することについて
	福津市教育指導員規則を改正することについて
	福津市学力向上推進委員会規則等を廃止することについて
	小規模校入学特別認可制度に伴う認定について
3月22日	福津市学校運営協議会規則を改正することについて
	福津市教育委員会事務局の組織に関する規則を改正することについて
	福津市スクールソーシャルワーカー設置規則を改正することについて
	福津市全国大会等出場奨励金交付要綱を改正することについて
	非常勤職員を任用することについて
	福津市スポーツ推進委員の委嘱について
	福津市いじめ問題対策連絡協議会委員及び福津市いじめ防止対策審議会委員の委嘱について

○協議案件（3件）

開催日	協議事項
4月24日	福津市民生委員推薦会委員の選任について
	平成31年度使用中学校教科用図書採択に係る教科用図書第3地区採択協議会委員の推薦について
5月28日	教職員の処分について

3 事務事業の取組状況と点検及び評価

福津市教育委員会では、毎年、福津市教育ドリームプランを定め、「夢や希望を持ち、健やかに育つ子ども」の育成をめざし、「行きたい学校、帰りたい家庭、住みたい地域」を基本理念としながら教育行政を総合的に進めています。

本市のコミュニティ・スクールでは、学校・家庭・地域がそれぞれの役割を担い、共働しながら、相互に責任を果たす共働・責任分担方式をすすめており、主に学校では確かな学力を、家庭では基本的な生活習慣を基盤とする生活力を、地域では社会的なマナーや礼儀、様々な立場の人たちと関わろうとする社会力を育てています。子どもがこれからの時代を生き抜いていくために必要な力を身に付けさせ、将来子どもたちが生きる地域の担い手を育てていきたいと考えています。その中で郷土愛を育み、循環型の地域社会づくりを目指しています。

【各施策の取組状況】

◇施策1. コミュニティ・スクールの発展

コミュニティ・スクール全校導入8年目を迎え、「学校を核とした地域づくり」をめざし、学校・家庭・地域が連携・共働し、社会総がかりで教育が進められるよう様々な取組を行いました。

1) 地域学校協働活動事業の推進、地域学校協働本部研修会の開催

地域学校協働本部の設置に向けて、地域コーディネーターの配置、持続可能なコミュニティ・スクール運営体制の整備、地域コーディネーター人材の育成、学校と地域のネットワークの構築を図ることを目的として本事業を実施しました。

2) 福津市コミュニティ・フェスタの開催

保護者、地域住民等に向けて、コミュニティ・スクールの取組を広く周知したり、地域で育てる「めざす子ども」の目標の共有化を図ったりするため実施しました。

3) 勤務環境整備のための支援の充実

コミュニティ・スクールや地域学校協働活動を通じた学校教育の質の向上と持続可能な業務改善に向けての支援を充実させるため、学校閉庁日や宗像地区部活動ガイドラインの策定、定時退校日の設定、校務支援システムの活用促進を図りました。

4) 定期学校・園訪問の実施

市の教育委員と教育委員会事務局が学校を訪問し、コミュニティ・スクールを基盤とし

た教育活動の実際を把握し、指導・助言を行うことで、校長（園長）がめざす子どもの姿の実現に向けて、教育内容や学校組織等の質的向上や学校運営の改善を図るため実施しました。

◇施策 2. 学力向上の推進

各学校における魅力ある授業づくりや安心感のある学級づくりを推進できるよう支援しました。また、義務教育9年間の学びや育ちを支えるために、中学校校区での小中連携による学力向上の取組の支援を行いました。

5) 3学期制による学びの充実

3学期制による3ステップのきめ細やかな指導に対しての助言を行うとともに、効果的な検証改善サイクルの構築と学力向上プランの活用促進のための指導を行いました。

6) 福津市学力向上スタンダードの推進

教頭研修会を学力向上推進会議として位置づけ、学力向上の課題分析を行い、「学力向上スタンダード」の検証・改善を図りました。

7) 福津市小・中学校統一学力テストの実施

基礎・基本及び活用力の定着状況を把握し、授業改善に活かすために小・中学校全児童生徒を対象とした市統一学力テストを実施しました。

8) 学級集団アセスメント事業（Q-Uテスト）の実施

学級集団の状況や児童生徒の課題等を客観的に分析し、学級集団の改善策や個別の支援策を検討し、実践・検証を行うことを目的として実施しました。

9) 管理職研修会等の充実、小中連携推進委員会の開催

中学校ブロックでの小小連携、小中連携を図るための研修を管理職研修会に位置づけるとともに、学校・家庭・地域をつなぐ小中連携を推進するための合同委員会を開催しました。

10) 学力向上・学級づくりのための研修会の充実

Q-U活用担当者研修、授業力・経営力アップ研修会、講師対象個別指導研修等の市主催の研修会の充実を図りました。

11) 保・幼・小の連携の推進

保育所・幼稚園と小学校の連携を密にし、保・幼でアプローチカリキュラム、小学校で

スタートカリキュラムの作成・活用に取り組み、幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続を図りました。

◇施策3. 学校における教育環境の整備

児童生徒の多様なニーズに応えるための教育環境の整備を進めました。

1 2) 少人数指導の充実

学習習慣や生活習慣の定着を図るためのきめ細かな指導や教科の学び方等の指導の支援を充実するため、市の非常勤講師を学習支援員として、学校に配置しました。

1 3) 指導体制・相談体制の充実

教育指導員、適応指導教室指導員、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー一等を配置し、専門家や関係機関との連携の充実を図ることにより、いじめや不登校の予防・解消に努めました。

1 4) 特別支援教育の充実

教育的ニーズの把握及び適切な支援を効果的に行うための特別支援教育支援員の配置、特別支援コーディネーターを核とした支援・指導体制の整備を維持するための連絡会を開催しました。

1 5) いじめ防止対策推進法に基づく取組の推進

福津市及び各学校のいじめ防止基本方針に基づき、いじめを生まない教育活動の推進、早期発見、早期対応に取り組むとともに、市いじめ問題対策連絡協議会、市いじめ防止対策審議会を設置し組織的対応を行いました。

1 6) 小規模校入学特別認可制度の実施

認可制度を継続することにより、勝浦小学校の児童数の確保、勝浦地区の自然や伝統文化を活かした地域ぐるみによる勝浦小学校の教育を未来につなげるため実施しました。

1 7) 就学・園援助・奨励の実施

さまざまな事情、状況によって就学が困難な家庭や私立幼稚園に就園する保護者、設置者に対して、援助や奨励費の確保に努めました。

1 8) 学校施設整備事業の実施

児童生徒数の増加に対応するとともに、学校施設の安全性の確保や効率的な施設運営が図れるよう小中学校の施設整備を行いました。

◇施策 4. 今日の課題に対応した教育の充実

変化の激しい社会に対応するための教育や新学習指導要領に対応した教育、福祉を愛し、地域と関わり貢献する児童生徒を育成するための教育の充実を図りました。

19) 道徳教育推進研修会の実施

特別の教科「道徳」の実施に向けて、授業づくりや評価のあり方について、教職員の理解を深めました。

20) 小学校外国語教育の推進

平成30年度からの外国語教育の先行実施に向けて、授業時数に応じたALTの配置や教職員の指導力の向上を目的とした研修会を開催しました。

21) 「ふるさと福祉」学習の推進

全市小・中学校で副読本を用いて「ふるさと福祉」学習を実施し、児童生徒の郷土愛や地域参画意識の高揚を図りました。また、「ふるさと福祉」学習の充実に向けての授業研修を開催しました。

22) 「食育」の推進、「自分で作ろう！かんたん朝ごはん教室」事業の実施

生涯にわたって健康で充実した生活を送るための基礎となる望ましい食習慣や自己管理能力を培う取組を推進するために、小学生を対象とした自分で簡単にできる朝食づくりの実習や栄養指導を行いました。

23) 講師対象個別指導研修、授業力・経営力アップ研修会の実施

若年の講師を対象とした指導主事の個別指導や授業力・経営力の高い教員の授業講義等を通して、授業力や学級経営力の向上を図り、教職員の実践的な指導力量を高めました。

◇施策 5. 生涯学習の充実、地域・家庭の教育力向上

市民の生涯学習を支援するとともに、地域自治を支える人材を発掘、育成しました。

24) 郷育カレッジと学校との連携

地域の「ひと・もの・こと」を活用して講座を実施している郷育カレッジの講師を体験活動の講師として紹介し、また、郷育カレッジの受講生と児童生徒が触れ合える講座を開設して、地域と学校の連携を深めました。

25) 地域の教育力向上の支援

地域学校協働活動事業として、アンビシャス広場における学習支援と、中学校区単位の活動を推進しました。

26) 家庭の教育力向上の支援

小中学校PTAが開催する家庭の教育力向上のための研修会に対し、青少年育成市民の会が支援を行いました。保育園児、幼稚園児、児童、生徒を対象に、生活リズムの向上のため「早寝・早起き・朝ごはん」運動や「ノーテレビ・ノーゲームチャレンジ」活動を推進しました。

27) 青少年のつどいの開催

青少年の健全育成に貢献された市民やスポーツ・文化芸術など様々な分野で顕著な活動をした児童生徒を顕彰しました。また、子ども会のモデル事業など青少年団体が行った活動の体験発表を通して、青少年育成活動の活性化を図りました。

◇施策6. 子どもの体験活動の充実

様々な体験活動に参加し、集団生活の大切さや自然環境保護の意義等を学び、児童生徒の自主性、協調性、規範意識や自尊感情の高揚を図りました。

28) 松本市との小学生交流事業の実施

市内の小学生と環境や文化、生活習慣等が異なる長野県松本市の子どもたちとの交流を通して、広い視野を持つとともに、ふるさと福津を見つめ直し、主体性のある子どもを育成するため実施しました。

29) 通学合宿の支援

子どもたちが、親元を離れ共同宿泊生活をしながら学校に通い、自分たちで炊事、洗濯、掃除、宿題などの日常の生活体験をとおして、基本的な生活習慣を身につけ、「自尊感情」や「規範意識」等の高揚を図るため通学合宿の支援を行いました。

30) アンビシャス広場の支援

放課後や休日の児童の居場所づくり、年齢に応じた様々な体験の機会を提供するため、地域全体で子どもを見守るアンビシャス広場の環境づくりを支援しました。

31) 青少年育成団体の支援

地域の子ども会育成会など、青少年育成団体に対する財政面での支援のほか、団体の活動に対して指導や助言を行い、環境づくりを支援しました。

◇施策 7. スポーツ文化芸術活動の充実

スポーツに触れ合う機会を創出し、地域文化を振興することで、心身の健康とスポーツ、文化芸術活動を通じた郷土愛、地域コミュニティの醸成を図りました。

3 2) 新体カテストの支援

スポーツ推進委員による小学校における新体カテストを支援しました。

3 3) 海洋スポーツ体験活動の実施

カヤックやヨットなどの海洋などの海洋スポーツ体験を通して、児童が海と親しむ機会を作りました。子どもたちの健全育成を図るとともに、海を取り巻く環境問題や海と人との歴史を学び、郷土が誇る資源を体感する機会をつくりました。

3 4) 全国大会等出場奨励金の交付

スポーツ及び芸術文化活動の振興を図るため、全国大会または国際大会に出場する場合に出場奨励金を交付しました。

3 5) スポーツ大会等の開催、支援

成人ソフトボール大会や成人祝賀駅伝競走大会、区対抗バレーボール大会など各種大会を開催し、市民の健康と、地域や異年齢間の交流を図りました。また、プリンセス駅伝を支援することで、アスリートを間近に見る機会を設けて「本物」に触れ、スポーツに対する興味、関心を喚起しました。

3 6) 芸術文化事業の開催、支援

三中学校吹奏楽部合同演奏会の開催、複合文化センターが行う文化芸術イベントによる本物の芸術を鑑賞する機会の充実、市内の伝統文化継承活動の財政面での支援等により、文化芸術活動の振興を図りました。

3 7) 読書活動の充実

生後4ヶ月健診時のブックスタート事業や市立図書館での0歳からのお話会や読み聞かせ活動により読書への関心を高めました。児童を対象にした「子ども司書養成事業」、中学生を対象にした「中学生読書サポーター養成事業」により、学校や地域での読書リーダーを育て、読書活動の充実を図りました。

3 8) スポーツ・文化団体の支援

市体育協会、市文化協会を財政面で支援し、団体の活動に対し協力、指導、助言を行いました。

39) 史跡整備事業

世界遺産の構成資産の一つである新原・奴山古墳群の保存・活用を図るために、継続して民有地の公有化と整備を行いました。

40) 世界遺産保存活用事業

世界遺産を観光振興へと繋げるために、原動機付自転車のナンバープレートに古墳群PRに使うために、デザイン案を市内中学校の美術部員が作成し、市内小中学校の全クラスでの選考によるデザイン決定を行いました。

平成30年度 重点事業シート

施策1. コミュニティ・スクールの発展

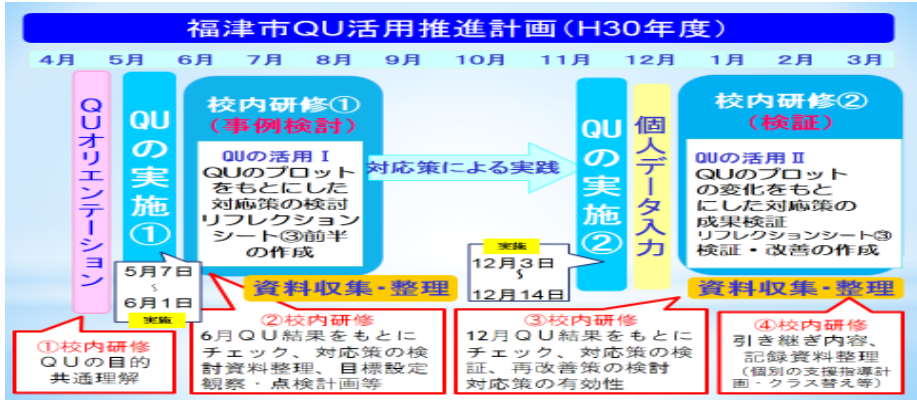
<p>事業名</p>	<p>コミュニティ・スクール推進事業費(地域学校協働活動事業)</p>	<p>H30 決算</p>	<p>2,196,160 円</p>
<p>目的等</p>	<p>コミュニティ・スクールを基盤とした教育活動をより一層充実・発展させる。</p>		
<p>事業内容</p>	<p>〇市内全ての小中学校では、市民が学校運営に参画するしくみとして、学校運営協議会を設置し、学校、家庭、地域が連携・共働して子どもたちの学びや育ちを支えるコミュニティ・スクールを基盤とした教育活動を推進している。福津市コミュニティ・スクール推進計画では、平成30年度からの発展期の取組として、これまでの学校運営協議会を中心としたしくみから、学校運営協議会と地域学校協働本部との両輪によるしくみを構築し、学校と地域のかかわりの機能化や持続性を図り、特色ある学校教育活動を推進することになっている。そのため、学校と地域社会をつなぐ役割を担う地域学校協働活動推進員(地域コーディネータ)を配置する。</p>		
<p>成果目標</p>	<p>全小中学校に地域学校協働活動推進員(地域コーディネーター)を配置し、地域と連携・共働したコミュニティ・スクールを基盤とした特色ある教育活動を実践する。</p>		
<p>H30年度の成果等</p>	<p>〇平成30年度より、市内全小中学校に地域学校協働本部を設置し地域学校協働活動推進員(地域コーディネータ)を配置したことにより、学校と地域をつなぐ役割が明確になった。地域と連携・共働したコミュニティ・スクールを基盤とした特色ある教育活動の実践が評価され、「勝浦地域学校協働本部」の取組が地域学校協働活動推進に係る文部科学大臣表彰を受けた。</p>		



	<p style="text-align: center;">地域学校協働本部のイメージ</p> <p style="text-align: center;">福津市では23名(H30)の地域学校協働活動推進員(地域コーディネーター)を配置</p> <p style="text-align: center;">地域学校共働活動推進のための地域コーディネーターと地域連携担当教員の育成研修ハンドブックより</p> <p style="text-align: center;">地域学校協働活動推進員(地域コーディネーター)の役割(平成30年度23人)</p> <p style="text-align: center;">学校と地域社会をつなぐ役割を果たします</p> <p>学校と地域の状況を把握し、効果的な取組が行われるようにサポートします。</p> <p>学校運営協議会の活動をサポートします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①学校の支援要望把握と地域との連絡・調整 ②学校支援ボランティアの発掘・組織化 ③地域住民への広報・啓発 ④ニーズの掘り起こし ⑤プログラムの開発、活動のルールづくり ⑥活動後のフォローアップ等
<p>今後の方向性等</p>	<p>○地域学校協働活動をより円滑に行うため、推進協議会やブロック連絡会を通して地域学校協働活動推進員(地域コーディネーター)の役割や効果的な関わりを共有し、コーディネーターの質の向上を図る必要がある。地域学校協働活動事業が学校現場の業務改善につながるよう持続可能な推進本部体制を構築する必要がある。</p> <p>○地域学校協働本部連絡協議会を年間2回開催し、地域コーディネーターの役割等の理解や実践報告を行う。中学校ブロックごとに、地域学校協働活動推進員のリーダー的存在として統括的なコーディネーターを登用し、ブロック連絡会を開催し、地域コーディネーター同士の交流や情報交換を行う。</p>
<p>評価「◎」達成 「○」概ね達成 「△」未達成 「×」未実施</p>	<p style="text-align: center;">○</p>
<p>全小中学校に地域学校協働活動推進員(地域コーディネーター)を配置できたことにより、今後は、持続可能な推進本部体制の構築を進める。</p>	

平成30年度 重点事業シート

施策2. 学力向上の推進

事業名	学級集団アセスメント事業 (Q-Uアンケート)	H30 決算	2,918,950円
目的等	学級集団の状況や児童生徒の課題等を客観的に分析し、学級集団の改善策や個別の支援策を検討し、実践・検証を行う。		
事業内容	○学校において、集団生活を行うルールやマナーを確立させること、いじめや不登校の対象となりがちな子どもを早期発見し未然に防止すること、人間関係づくりが苦手な子を集団に適応できるようにすることなど親和的な学級集団の形成ができるように、すべての小中学校でQ-Uテストによる学級集団アセスメントを実施する。		
成果目標	すべての小中学校でQ-Uテストによる学級集団アセスメントを実施し、親和的な学級集団づくりに活用する。		
H30年度の成果等	<p>○Q-Uテストを実施することにより、児童生徒の学校生活・学級生活への満足感など、個人（児童生徒）と学級集団全体の実態を把握し、親和的な学級集団形成のために活用がされた。また、学校においては、教職員がQ-Uの効果的な活用ができるように校内研修を実施し、学級経営の改善や生徒指導・特別支援教育体制の見直し等を行った。</p> 		
今後の方向性等	○各学校における親和的な学級集団づくりのため、年2回のQ-Uテストの実施を継続する。		
評価	「◎」達成 「○」概ね達成 「△」未達成 「×」未実施	◎	
各学校において、学級集団の状況や児童生徒の課題等を客観的に分析し、学級集団の改善策や個別の支援策の実践・検証を行った。			

平成30年度 重点事業シート

施策3. 学校における教育環境の整備

事業名	教育相談事業費（教育相談事業）	H30 決算	13,078,992 円																																												
目的等	児童生徒の不登校やいじめ等の生徒指導上の諸問題の解決を図る。																																														
事業内容	○小学校、中学校において教育相談体制の充実及び強化を図るために、教育相談員、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなどの専門スタッフを配置し、児童、生徒、教職員、保護者に対して、助言、指導を行い、学校教育活動を支援する。																																														
成果目標	不登校の割合が国の割合を下回る。																																														
H30年度の成果等	<p>○いじめや不登校に関して、きめ細やかな継続的な支援を行っていくためには、早期対応と継続的指導の充実や地域・家庭、関係機関等との密接な連携を継続的に図っていく必要がある。年度初めに「いじめ・不登校等支援担当者連絡会」を開催し、学校と関係諸機関が一堂に会することにより、情報交換等を行うとともに、支援ネットワークの確認を行うことができた。また、各学校においては、いじめ防止、児童虐待防止、不登校対応のため、学校と関係諸機関（スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、家庭児童相談員、発達支援センター、適応指導教室指導員、主任児童委員等）を交えた支援会議を定例会議（月1回）として実施し、一体となった児童生徒の安全確保や問題行動等の防止に取り組むことができた。</p> <p>教育相談件数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>相談件数</td> <td>282</td> <td>375</td> <td>1633</td> </tr> </tbody> </table> <p>※平成30年度は、SC及びSSWの相談件数も加えた件数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>来所</td> <td></td> <td>33</td> <td>989</td> </tr> <tr> <td>電話</td> <td></td> <td>37</td> <td>109</td> </tr> <tr> <td>訪問</td> <td></td> <td>305</td> <td>195</td> </tr> <tr> <td>巡回(SC・SSW)</td> <td></td> <td>0</td> <td>340</td> </tr> </tbody> </table> <p>不登校の状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小学校</td> <td>28人</td> <td>19人</td> <td>25人</td> </tr> <tr> <td>中学校</td> <td>42人</td> <td>62人</td> <td>65人</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>70人</td> <td>81人</td> <td>90人</td> </tr> </tbody> </table>				28年度	29年度	30年度	相談件数	282	375	1633		28年度	29年度	30年度	来所		33	989	電話		37	109	訪問		305	195	巡回(SC・SSW)		0	340		28年度	29年度	30年度	小学校	28人	19人	25人	中学校	42人	62人	65人	合計	70人	81人	90人
	28年度	29年度	30年度																																												
相談件数	282	375	1633																																												
	28年度	29年度	30年度																																												
来所		33	989																																												
電話		37	109																																												
訪問		305	195																																												
巡回(SC・SSW)		0	340																																												
	28年度	29年度	30年度																																												
小学校	28人	19人	25人																																												
中学校	42人	62人	65人																																												
合計	70人	81人	90人																																												

	ひだまり入級状況		
	28年度	29年度	30年度
小学校	4人	4人	7人
中学校	7人	13人	16人
合計	11人	17人	23人
今後の方向性等	<p>○教育相談件数も増加傾向にあり、いじめ、不登校への対応や、ネグレクトや貧困などの家庭環境への働きかけを含む教育相談件数は毎年増加傾向にあることから、相談体制の更なる充実を図るために臨床心理に関して専門的知識を有するスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等の人材を確保していく必要がある。</p> <p>○市立小・中学校に市費のスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを配置し、いじめの未然防止や不登校に対する改善策の相談等、学校内の教育相談体制を強化することにより、児童・生徒へのカウンセリング、保護者及び教職員への助言や援助を充実させる。</p>		
評価	「◎」達成 「○」概ね達成 「△」未達成 「×」未実施	△	
各学校での支援会議等「チーム学校」としての取組の更なる充実とともに、専門家による相談体制を強化する必要がある。			

平成30年度 重点事業シート



施策3. 学校における教育環境の整備

事業名	事務局一般管理費(特別支援教育総合推進事業)	H30 決算	13,705,756 円																																																																
目的等	発達障害を含む障がいのある児童生徒一人ひとりの教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服できるようにするため、適切な指導及び支援を行なう。																																																																		
事業内容	○発達障害を含む障がいのある児童生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援するという視点に立ち、実態把握や適切な個別指導及び支援が実施できる体制を充実させるため、各学校に必要な特別支援教育支援員を配置する。																																																																		
成果目標	配慮を要する児童生徒の「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の作成率 100%																																																																		
H30年度の成果等	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="4">特別支援教育支援員の配置数</th> </tr> <tr> <th></th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小学校</td> <td>10人</td> <td>13人</td> <td>16人</td> </tr> <tr> <td>中学校</td> <td>3人</td> <td>2人</td> <td>3人</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>13人</td> <td>15人</td> <td>19人</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="4">特別支援学級数</th> </tr> <tr> <th></th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小学校</td> <td>14学級</td> <td>22学級</td> <td>23学級</td> </tr> <tr> <td>中学校</td> <td>4学級</td> <td>4学級</td> <td>8学級</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>18学級</td> <td>26学級</td> <td>31学級</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="4">就学相談件数</th> </tr> <tr> <th></th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>就学前</td> <td>33件</td> <td>31件</td> <td>42件</td> </tr> <tr> <td>小学生</td> <td>41件</td> <td>49件</td> <td>66件</td> </tr> <tr> <td>中学生</td> <td>2件</td> <td>4件</td> <td>6件</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>76件</td> <td>84件</td> <td>114件</td> </tr> </tbody> </table>			特別支援教育支援員の配置数					28年度	29年度	30年度	小学校	10人	13人	16人	中学校	3人	2人	3人	合計	13人	15人	19人	特別支援学級数					28年度	29年度	30年度	小学校	14学級	22学級	23学級	中学校	4学級	4学級	8学級	合計	18学級	26学級	31学級	就学相談件数					28年度	29年度	30年度	就学前	33件	31件	42件	小学生	41件	49件	66件	中学生	2件	4件	6件	合計	76件	84件	114件
特別支援教育支援員の配置数																																																																			
	28年度	29年度	30年度																																																																
小学校	10人	13人	16人																																																																
中学校	3人	2人	3人																																																																
合計	13人	15人	19人																																																																
特別支援学級数																																																																			
	28年度	29年度	30年度																																																																
小学校	14学級	22学級	23学級																																																																
中学校	4学級	4学級	8学級																																																																
合計	18学級	26学級	31学級																																																																
就学相談件数																																																																			
	28年度	29年度	30年度																																																																
就学前	33件	31件	42件																																																																
小学生	41件	49件	66件																																																																
中学生	2件	4件	6件																																																																
合計	76件	84件	114件																																																																

<p>今後の方向性等</p>	<p>○学校では、LD・ADHDに代表される情緒障がい、言語や身体障がい等の特別支援学級の充実や特別支援教育支援員の増員が求められている。また、学校における、発達障がいや特別支援教育等に関する教育相談体制の充実を図る必要がある。</p> <p>○学校における特別支援教育のサポート体制を充実させるために、特別支援教育コーディネーターの役割を明確にするとともに、臨床心理士等の専門家配置を強化し、就学相談に繋がられるようにする。</p>
<p>評価「◎」達成 「○」概ね達成 「△」未達成 「×」未実施</p>	
<p>引き続き必要な支援員数を確保し配置する。併せて、各学校の特別支援教育コーディネーターが中心となって、学校内における教職員と支援員とのパートナーシップの構築や専門性の向上、学校における相談・支援機能の充実を図る必要がある。</p>	

平成30年度 重点事業シート


施策3. 学校における教育環境の整備

事業名	小学校施設維持管理費（小学校ICT学習環境整備事業）	H30 決算	4,898,880 円
目的等	学校のICT環境を整備し、子どもたちが適切な情報活用能力を身に付けることができるようにする。		
事業内容	<p>○国（文部科学省）においては、Society5.0に向けた人材育成において、ICT環境や新たな教育ニーズに対応できる学校施設など次世代の教育インフラを充実していく必要があるとしており、教育の加速化プランを策定、第3期教育振興基本計画や新学習指導要領等においても「教育の情報化」を明記している。</p> <p>○そのような状況の下、福津市教育委員会においても、国の計画等の方針のもと計画的な取組を進めるために「福津市教育の情報化推進計画」を策定した。計画期間は、2019年度から2026年度までの8年間の整備計画であるが、この計画に基づく環境整備を一部前倒しするかたちで平成30年度は、各教科等の学習にICTを積極的に活用するために必要な電子黒板の整備を促進し、電子黒板の活用による指導方法の改善・効率化及び指導力の向上の実現を図る。</p>		
成果目標	福津市教育の情報化推進計画に基づくICT学習環境を整える。		
H30年度の成果等	<p>○耐用年数が経過した電子黒板の更新により、わかりやすい授業、より効果的な指導を行うため、電子黒板の活用がしやすくなった。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start;"> <div data-bbox="440 1339 855 1653" style="text-align: center;">  <p>神興小学校 宿題プリントの回答説明の様子。</p> </div> <div data-bbox="963 1666 1369 1975" style="text-align: center;">  <p>津屋崎小学校 ALTによる英語の授業の様子。</p> </div> </div>		

<p>今後の方向性等</p>	<p>○教育の情報化には、「情報活用能力の育成」「教科等の指導におけるICTの活用」「校務のICT化」の3つの側面があり、それらを通して教育の質の向上をめざす必要がある。新学習指導要領等に示された、学習の基盤となる資質能力である情報活用能力の育成を図り、身に付けた能力を発揮することにより、「主体的・対話的で深い学び」へつなげていく必要がある。そのためには、教職員への研修の充実、実践発表やそこで得られた成果や課題の共有を行うことも必要である。</p> <p>○教育の情報化を計画的かつ着実に進めるために、教育委員会事務局、指導主事、学校代表者（校長・教頭・情報教育担当教諭）等で「福津市教育情報化推進協議会」を組織する。推進協議会は、教育の情報化を効率的、効果的に進めていくために、機器の整備をはじめ、ソフトウェア等のコンテンツの選定、ネットワークの構築、教職員の授業支援、情報モラル研修等の検討を行い、その方針を協議する。市長部局の関係部署との連携・共動しながら環境整備を行う。</p>
<p>評価「◎」達成 「○」概ね達成 「△」未達成 「×」未実施</p>	<p>○</p>
<p>各校1台の電子黒板の更新（平成30年度事業分）について、計画どおり実施できた。</p>	

平成30年度 重点事業シート

施策3. 学校における教育環境の整備

事業名	小学校給食施設整備事業費 (小学校給食施設整備事業)	H30 決算	12,886,171 円																																													
目的等	安定した給食提供が実施できる環境を整える。																																															
事業内容	○福間南小、福間小の学級数増加に伴う、小学校給食用消耗品(トレイ、箸、スプーン等)、備品(立体炊飯機、消毒保管機等)の給食環境整備。福間小児童数の増加に伴う給食室の配置見直し工事および設計監理。																																															
成果目標	安心安全な給食を安定的に提供する。																																															
H30年度の成果等	<p>○福間小学校児童数の増加に伴う給食室設備の配置見直し工事において、立体炊飯器、消毒保管庫等の設備環境を整備したことにより提供可能食数が1200食となる。</p> <p>・給食実施数(職員等含む) (毎年5月1日)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>学校名</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>福間小</td> <td>657</td> <td>700</td> <td>795</td> <td>929</td> </tr> <tr> <td>福間南小</td> <td>816</td> <td>1,060</td> <td>1,195</td> <td>1345</td> </tr> <tr> <td>神興小</td> <td>307</td> <td>311</td> <td>310</td> <td>283</td> </tr> <tr> <td>神興東小</td> <td>603</td> <td>582</td> <td>549</td> <td>563</td> </tr> <tr> <td>上西郷小</td> <td>136</td> <td>145</td> <td>151</td> <td>154</td> </tr> <tr> <td>津屋崎小</td> <td>785</td> <td>817</td> <td>847</td> <td>893</td> </tr> <tr> <td>勝浦小</td> <td>85</td> <td>94</td> <td>101</td> <td>97</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>3,389</td> <td>3,709</td> <td>3,948</td> <td>4,264</td> </tr> </tbody> </table> <p>  </p>			学校名	27年度	28年度	29年度	30年度	福間小	657	700	795	929	福間南小	816	1,060	1,195	1345	神興小	307	311	310	283	神興東小	603	582	549	563	上西郷小	136	145	151	154	津屋崎小	785	817	847	893	勝浦小	85	94	101	97	合計	3,389	3,709	3,948	4,264
学校名	27年度	28年度	29年度	30年度																																												
福間小	657	700	795	929																																												
福間南小	816	1,060	1,195	1345																																												
神興小	307	311	310	283																																												
神興東小	603	582	549	563																																												
上西郷小	136	145	151	154																																												
津屋崎小	785	817	847	893																																												
勝浦小	85	94	101	97																																												
合計	3,389	3,709	3,948	4,264																																												
今後の方向性等	<p>○給食調理の現場においては、限られた時間内で「学校給食衛生管理の基準」に沿った安全性が確保された安心な給食を提供する必要がある。</p> <p>○児童数の増加に比例する給食実施数の増加に伴う食数を確実に確保する必要がある。</p> <p>○安全性が確保された安心な給食を確実に提供するために、各学校の栄養教諭等と連携し、厨房機器の耐用年数や使用状態などを確認した上</p>																																															

	で、現場の状況に適した厨房機器の入れ替えや作業工程の見直しなどを行う。	
評 価「◎」達成 「○」概ね達成 「△」未達成 「×」未実施		○
児童数、学級数の増加に伴う対応を行った。福間小学校給食室（平成 30 年度事業分）について、計画どおり実施できた。		

平成30年度 重点事業シート



施策3. 学校における教育環境の整備

事業名	中学校施設維持管理費（中学校ICT学習環境整備事業）	H30 決算	2,099,520 円
目的等	学校のICT環境を整備し、子どもたちが適切な情報活用能力を身に付けることができるようにする。		
事業内容	<p>○国（文部科学省）においては、Society5.0に向けた人材育成において、ICT環境や新たな教育ニーズに対応できる学校施設など次世代の教育インフラを充実していく必要があるとしており、教育の加速化プランを策定、第3期教育振興基本計画や新学習指導要領等においても「教育の情報化」を明記している。</p> <p>○そのような状況の下、福津市教育委員会においても、国の計画等の方針のもと計画的な取組を進めるために「福津市教育の情報化推進計画」を策定した。計画期間は、2019年度から2026年度までの8年間の整備計画であるが、この計画に基づく環境整備を一部前倒しするかたちで平成30年度は、各教科等の学習にICTを積極的に活用するために必要な電子黒板の整備を促進し、電子黒板の活用による指導方法の改善・効率化及び指導力の向上の実現を図る。</p>		
成果目標	福津市教育の情報化推進計画に基づくICT学習環境を整える。		
H30年度の成果等	<p>○耐用年数が経過した電子黒板の更新により、わかりやすい授業、より効果的な指導を行うため、電子黒板の活用がしやすくなった。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start;"> <div data-bbox="427 1352 943 1648" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="959 1429 1257 1507" data-label="Caption"> <p>教員向け電子黒板活用 研修会の様子</p> </div> <div data-bbox="459 1809 758 1888" data-label="Caption"> <p>教員向け電子黒板活用 研修会の様子</p> </div> <div data-bbox="855 1675 1377 1962" data-label="Image"> </div> </div>		

<p>今後の方向性等</p>	<p>○教育の情報化には、「情報活用能力の育成」「教科等の指導におけるICTの活用」「校務のICT化」の3つの側面があり、それらを通して教育の質の向上をめざす必要がある。新学習指導要領等に示された、学習の基盤となる資質能力である情報活用能力の育成を図り、身に付けた能力を発揮することにより、「主体的・対話的で深い学び」へつなげていく必要がある。そのためには、教職員への研修の充実、実践発表やそこで得られた成果や課題の共有を行うことも必要である。</p> <p>○教育の情報化を計画的かつ着実に進めるために、教育委員会事務局、指導主事、学校代表者（校長・教頭・情報教育担当教諭）等で「福津市教育情報化推進協議会」を組織する。推進協議会は、教育の情報化を効率的、効果的に進めていくために、機器の整備をはじめ、ソフトウェア等のコンテンツの選定、ネットワークの構築、教職員の授業支援、情報モラル研修等の検討を行い、その方針を協議する。市長部局の関係部署との連携・共動しながら環境整備を行う。</p>
<p>評価「◎」達成 「○」概ね達成 「△」未達成 「×」未実施</p>	<p>○</p>
<p>各校1台の電子黒板の更新（平成30年度事業分）について、計画どおり実施できた。</p>	

平成30年度 重点事業シート

施策3. 学校における教育環境の整備

事業名	小学校校舎施設整備事業費 (福間小学校整備改修事業)	H30 決算	1,079,174,798 円
目的等	児童数の増加に対応するとともに、施設の安全性の確保や効率的な施設運用が図れるようにする。		
事業内容	<p>老朽化した教室棟校舎の増築建替え、並びに児童数の増加に伴う職員室の拡張整備</p> <p>○教室棟増築建替え【継続費】 教室棟建替え工事、監理業務、物流業務、仮設校舎賃貸借</p> <p>○管理棟改修 職員室拡張工事、設計・監理業務</p>		
成果目標	老朽化した学校施設を建替えることにより、児童が学習及び生活を送る校舎をより良好で安全な施設とする。		
H30年度の成果等	<p>○福間小学校の教室棟は、建築後約50年が経過し、老朽化による校舎の耐久性及び耐力度の低下が顕著だったため、建替えが急務となっていた。加えて、児童数の急増による教室不足にも対応する必要があったため、平成29年度からの2か年で教室棟の増築建替え工事を実施し、平成30年12月に完成した。このことにより、平成31年1月からは全児童が安心・安全に学校生活を送ることができる校舎とすることができた。</p> <p>○急増した児童に対応するために教職員も増員されてきていたが、職員室のスペース不足が問題となっていた。よって、教職員数に見合った職員室の広さにするための職員室拡張工事を行った結果、教職員数に応じた執務スペースを確保することができた。</p> <p>・ 老朽化した教室棟の旧校舎</p> <p>・ 増築建替えされた新校舎</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start;"> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="text-align: center;">  </div> </div>		

	<p>・児童数の増加状況</p> <p>・木質化された新校舎の教室</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="427 383 995 831"> <p style="text-align: center;">福間小学校児童数推移</p> <table border="1"> <caption>福間小学校児童数推移 (推定値)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>児童数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H22</td><td>550</td></tr> <tr><td>H23</td><td>580</td></tr> <tr><td>H24</td><td>600</td></tr> <tr><td>H25</td><td>620</td></tr> <tr><td>H26</td><td>650</td></tr> <tr><td>H27</td><td>680</td></tr> <tr><td>H28</td><td>720</td></tr> <tr><td>H29</td><td>780</td></tr> <tr><td>H30</td><td>850</td></tr> <tr><td>H31</td><td>1050</td></tr> </tbody> </table> </div> <div data-bbox="1011 383 1374 875"> </div> </div>	年度	児童数	H22	550	H23	580	H24	600	H25	620	H26	650	H27	680	H28	720	H29	780	H30	850	H31	1050
年度	児童数																						
H22	550																						
H23	580																						
H24	600																						
H25	620																						
H26	650																						
H27	680																						
H28	720																						
H29	780																						
H30	850																						
H31	1050																						
<p>今後の方向性等</p>	<p>○福間小学校は児童数の急増が続いており、令和3年度には再び教室不足となる見込みであり、その対応が急務となっている。</p> <p>○管理棟校舎は建築後47年が経過しているため、建物の老朽化が顕著であり、今後の維持補修費の増大が懸念されている。</p> <p>○管理棟校舎などの施設の老朽化対策に関しては、基本的には長寿命化改修事業を行っていくことになるが、多額の事業費が見込まれることから、小中学校全体の中で事業費の平準化を図っていく必要があるため、平成31年度（令和元年度）末までに学校施設全体に係る長寿命化計画を策定することとしている。</p>																						
<p>評価「◎」達成 「○」概ね達成 「△」未達成 「×」未実施</p>	<p>○</p>																						
<p>平成28年度から着手してきた教室棟の校舎建替え事業は、平成30年12月に完了し、児童たちは平成31年1月から新校舎で学校生活を送れるようになった。但し、当初の予定から事業完了が3か月ほど遅れたため、「○概ね達成」の評価とした。</p>																							

平成30年度 重点事業シート

施策3. 学校における教育環境の整備

事業名	小学校校舎施設整備事業費 (福間南小学校整備改修事業)	H30 決算	121,338,000 円																						
目的等	児童数の増加に対応するとともに、施設の安全性の確保や効率的な施設運用が図れるようにする。																								
事業内容	職員室の拡張整備、水道施設の調査設計、及び軽量鉄骨造2階建リース校舎の賃借料支払い ○管理棟改修 管理棟改修工事、監理業務 ○リース校舎(教室棟) 軽量鉄骨造2階建リース校舎賃借 ○水道施設 水道施設調査設計																								
成果目標	職員室の拡張工事を行うことにより、教職員数に見合った職員室のスペースを確保する。																								
H30年度の成果等	<p>○福間南小学校においては、急増した児童に対応するために教職員も増員されてきていたが、職員室のスペース不足が問題となっていた。よって、教職員数に見合った職員室の広さにするための職員室拡張工事を行った結果、教職員数に応じた執務スペースを確保することができた。</p> <p>○児童数は今後も更に増えることが予想されることから、現有の水道施設の検証を含めた調査・設計業務を行い、今後の児童数の増加に対し即座に対応できる体制を整えた。また、躯体の老朽化による屋上の防水工事を実施し、雨漏り対策を行った。</p> <p>・児童数の増加状況</p> <div data-bbox="427 1444 885 1892" data-label="Figure"> <table border="1"> <caption>福間南小学校児童数推移</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>児童数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H22</td><td>500</td></tr> <tr><td>H23</td><td>550</td></tr> <tr><td>H24</td><td>600</td></tr> <tr><td>H25</td><td>650</td></tr> <tr><td>H26</td><td>750</td></tr> <tr><td>H27</td><td>850</td></tr> <tr><td>H28</td><td>950</td></tr> <tr><td>H29</td><td>1050</td></tr> <tr><td>H30</td><td>1150</td></tr> <tr><td>H31</td><td>1250</td></tr> </tbody> </table> </div> <p>・平成29年度に完成した 軽量鉄骨造2階建リース校舎 (学校校舎賃借料)</p> <div data-bbox="901 1527 1369 1863" data-label="Image"> </div>			年度	児童数	H22	500	H23	550	H24	600	H25	650	H26	750	H27	850	H28	950	H29	1050	H30	1150	H31	1250
年度	児童数																								
H22	500																								
H23	550																								
H24	600																								
H25	650																								
H26	750																								
H27	850																								
H28	950																								
H29	1050																								
H30	1150																								
H31	1250																								

<p>今後の方向性等</p>	<p>○福間南小学校は児童数の急増が続いており、令和2年度には再び教室不足となる見込みであり、その対応が急務となっている。</p> <p>○校舎や体育館などは建築後38年が経過しているため、建物の老朽化が顕著であり、今後の維持補修費の増大が懸念されている。</p> <p>○校舎や体育館などの施設の老朽化対策に関しては、基本的には長寿命化改修事業を行っていくことになるが、多額の事業費が見込まれることから、小中学校全体の中で事業費の平準化を図っていく必要があるため、平成31年度（令和元年度）末までに学校施設全体に係る長寿命化計画を策定することとしている。</p>
<p>評価「◎」達成 「○」概ね達成 「△」未達成 「×」未実施</p>	
<p>◎</p> <p>予定どおりに職員室拡張工事が完了し、現有施設においては最大限に職員室を拡張することができた。</p>	

平成30年度 重点事業シート

施策3. 学校における教育環境の整備

事業名	小学校校舎施設整備事業費 (神興小学校整備改修事業)	H30 決算	4,986,360 円
目的等	学校教育施設の余裕ストックの有効活用を図るとともに、施設の安全性の確保や効率的な施設運用が図れるようにする。		
事業内容	神興地域郷づくり推進協議会の拠点（交流センター）整備に伴う改修 ○教室棟改修 教室棟改修工事		
成果目標	神興地域郷づくり推進協議会の拠点（交流センター）整備に必要なスペースを確保することにより、余裕教室を有効に活用する。		
H30年度の成果等	<p>○神興小学校の普通教室（特別支援学級を含む）の移転工事を行ったことにより、平成31年度（令和元年度）に予定されている神興地域郷づくり推進協議会の拠点（交流センター）整備のためのスペースを確保することができた。</p> <p>・工事前の教室レイアウト図</p> <p>1階 平面図</p> <p>・工事後の教室レイアウト図</p> <p>1階 平面図</p>		

<p>今後の方向性等</p>	<p>○神興小学校の校舎は建築後４５年以上が経過しており、老朽化が著しい。また、学校規模としては児童数の減少が続いており、今後の児童数の推計を見据えながら施設の改修に取り組む必要がある。</p> <p>○校舎等施設の老朽化対策に関しては、基本的には長寿命化改修事業を行っていくことになるが、多額の事業費が見込まれることから、小中学校全体の中で事業費の平準化を図っていく必要があるため、平成３１年度（令和元年度）末までに学校施設全体に係る長寿命化計画を策定することとしている。</p>
<p>評 価「◎」達成 「○」概ね達成 「△」未達成 「×」未実施</p>	<p>◎</p>
<p>余裕教室を神興地域郷づくり推進協議会の拠点（交流センター）へ変更するための工事が予定どおりに完了し、来年度以降ではあるが余裕教室の有効活用の準備ができた。</p>	

平成30年度 重点事業シート

施策3. 学校における教育環境の整備

事業名	小学校校舎施設整備事業費 (津屋崎小学校整備改修事業)	H30 決算	5,422,680 円
目的等	児童数の増加に対応するとともに、施設の安全性の確保や効率的な施設運用が図れるようにする。		
事業内容	児童数の増加に伴う普通教室等の確保 ○リース校舎(教室棟) リース校舎設計監理業務		
成果目標	急増する児童数に対応するため、平成31年度に不足が見込まれる教室数を確保する。		
H30年度の成果等	<p>○津屋崎小学校においては、児童数の増加により平成31年度(令和元年度)には教室不足となる見込みであったため、軽量鉄骨造2階建リース校舎の整備を行うべく、その建築に係る設計・監理業務を行った。その結果、平成31年度(令和元年度)の新学期にはリース校舎の利用が可能となり、必要な教室数を確保することができた。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>・増築されたリース校舎 (南側より撮影)</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>・増設されたリース校舎 (西側より撮影)</p>  </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div style="text-align: center;"> <p>・リース校舎の教室</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>・リース校舎の廊下</p>  </div> </div>		

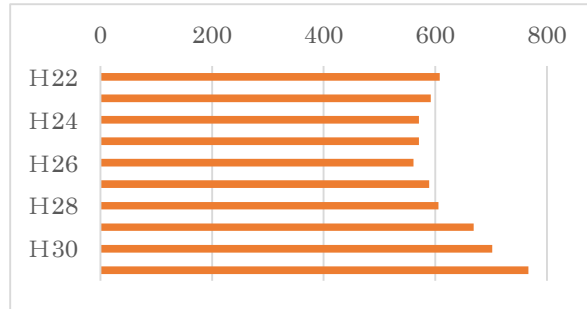
<p>今後の方向性等</p>	<p>○津屋崎小学校の児童数は今後も増加していく見込みであり、教室不足による再度の校舎増築の必要性が懸念されている。</p> <p>○体育館や校舎の一部は建築後35年以上経過している上、塩害もあって、建物の老朽化が著しい箇所も多く、今後の維持補修費の増大が懸念されている。</p> <p>○今後の児童数の伸びを推計し、将来の校舎増築の必要性について十分な検討を行い、必要に応じて増築計画を策定する。</p> <p>○体育館などの施設の老朽化対策に関しては、基本的には長寿命化改修事業を行っていくことになるが、多額の事業費が見込まれることから、小中学校全体の中で事業費の平準化を図っていく必要があるため、平成31年度（令和元年度）末までに学校施設全体に係る長寿命化計画を策定することとしている。</p>
<p>評価「◎」達成 「○」概ね達成 「△」未達成 「×」未実施</p>	<p>◎</p>
<p>年度内にリース校舎整備が完了し、平成31年度に危惧されていた教室不足を解消することができた。</p>	

平成30年度 重点事業シート

施策3. 学校における教育環境の整備

事業名	中学校校舎施設整備事業費 (福間中学校整備改修事業)	H30 決算	32,897,680 円																																					
目的等	生徒数の増加に対応するとともに、施設の安全性の確保や効率的な施設運用が図れるようにする。																																							
事業内容	老朽化した校舎の増築建替え工事の実実施設計、並びに生徒数の増加に伴う普通教室等の確保及び職員室等の管理諸室の整備 ○校舎増築建替え 校舎建替え工事实実施設計 ○校舎改修 アスベスト撤去工事、LL教室改修工事																																							
成果目標	老朽化した学校施設を建替えることにより、生徒が学習及び生活を送る校舎をより良好で安全な施設とする。																																							
H30年度の成果等	<p>○福間中学校においては、校舎の老朽化と生徒数の増加に対応した増築建替え工事に係る実施設計を行った。工事期間の短縮と生徒の安全性を十分に配慮した設計に変更したため、年度内に完了せず繰越となったが、この実施設計に基づき令和2年度には校舎本体の建替え工事に着手し、令和4年度からは全生徒が安全で快適な新校舎で学校生活を送ることが可能となる。</p> <p>○設計業務で行ったアスベスト含有量調査において、校舎内の一部の天井で基準を超えるアスベストが確認されたため、速やかに工事を行った結果、危険なアスベストを完全に除去することができた。また、平成31年度(令和元年度)には特別支援学級の教室不足が見込まれたため、LL教室を特別支援学級3教室へ改修し、必要な教室数を確保した。</p> <p>・老朽化による建物の残存年数がない</p> <table border="1" data-bbox="483 1518 1206 1933"> <thead> <tr> <th rowspan="3">校舎等</th> <th rowspan="3">建築年度</th> <th rowspan="3">構造</th> <th rowspan="3">面積(m²)</th> <th colspan="3">H27年 構造耐久性調査 残存供用年数(年)</th> <th>H29年 耐力度調査</th> </tr> <tr> <th>H27</th> <th>H29</th> <th>H33</th> <th rowspan="2">耐力度(点)</th> </tr> <tr> <th>30.5</th> <th>28.5</th> <th>24.5</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教室棟</td> <td>昭和45年</td> <td>RC3F</td> <td>2,302</td> <td>30.5</td> <td>28.5</td> <td>24.5</td> <td rowspan="3">3,899</td> </tr> <tr> <td>管理棟</td> <td>昭和48年</td> <td>RC3F</td> <td>3,488</td> <td>11.7</td> <td>9.7</td> <td>5.7</td> </tr> <tr> <td>渡り廊下</td> <td>昭和48年</td> <td>RC2F</td> <td>407</td> <td>20.2</td> <td>18.2</td> <td>14.2</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center; color: red;"> 築45年以上経過している。(昭和45年建築) 残存供用年数が9.7年(平成29年度) 耐力度が4,500点以下は危険建物 </p>			校舎等	建築年度	構造	面積(m ²)	H27年 構造耐久性調査 残存供用年数(年)			H29年 耐力度調査	H27	H29	H33	耐力度(点)	30.5	28.5	24.5	教室棟	昭和45年	RC3F	2,302	30.5	28.5	24.5	3,899	管理棟	昭和48年	RC3F	3,488	11.7	9.7	5.7	渡り廊下	昭和48年	RC2F	407	20.2	18.2	14.2
校舎等	建築年度	構造	面積(m ²)					H27年 構造耐久性調査 残存供用年数(年)			H29年 耐力度調査																													
								H27	H29	H33	耐力度(点)																													
				30.5	28.5	24.5																																		
教室棟	昭和45年	RC3F	2,302	30.5	28.5	24.5	3,899																																	
管理棟	昭和48年	RC3F	3,488	11.7	9.7	5.7																																		
渡り廊下	昭和48年	RC2F	407	20.2	18.2	14.2																																		

・生徒数の増加状況



・現在の福間中学校校舎



・改築後の福間中学校のイメージパース



今後の方向性等

○福間中学校は老朽化に加え、生徒数が増えているため、現在の保有教室を増やした形で建替えを行うものであるが、福間小学校、福間南小学校で児童数の急増が続いており、今後もさらに生徒数が増えていくことが予想されることから、近い将来、教室不足となる見込みが非常に強まっている。

○校舎は増築建替え工事を行うものの、体育館や武道場などの施設においても建物の老朽化が顕著であり、今後の維持補修費の増大が懸念されている。

○今後の生徒数の伸びを推計し、新設校を含めた将来の校舎増築の必要性について十分な検討を行い、教室不足となることがないように早期に結論を出す必要がある。

○体育館や武道場などの施設の老朽化対策に関しては、基本的には長寿命化改修事業を行っていくことになるが、多額の事業費が見込まれることから、小中学校全体の中で事業費の平準化を図っていく必要があるため、平成31年度（令和元年度）末までに学校施設全体に係る長寿命化計画を策定することとしている。

評価「◎」達成 「○」概ね達成 「△」未達成 「×」未実施

△

校舎建替え工事の実設計を行ったが、設計変更により年度内に完成しなかったため「△未達成」とした。なお、アスベスト除去や教室確保のための工事などは完了した。

平成30年度 重点事業シート

施策4. 今日の課題に対応した教育の充実

事業名	「ふるさと福津」学習の推進	H30 決算	18,000 円												
目的等	福津を愛し、地域と関わり貢献する児童生徒を育成するための教育の充実を図る。														
事業内容	○児童生徒の郷土愛や地域参画意識の高揚を図るため、全市小・中学校で副読本を用いて「ふるさと福津」学習を実施する。														
成果目標	「ふるさと福津」学習を年間指導計画に位置づけ、学習を実施する。														
H30年度の成果等	<p>市内全小中学校で共通の学習を進めるために、昨年度（平成29年度）に作成した「ふるさと福津」副読本を活用した学習の取組を始めた。教職員研修においても、ふるさと学習研修会を年2回実施し、副読本や指導案等の活用について、小学生では「地域への愛着を育てる教育活動」、中学生では「地域人の課題解決に向けた教育活動」を目標に共通理解が図られた。</p> <table border="1" data-bbox="427 1055 1337 1473"> <tr> <td>共通カリキュラム 小6年</td> <td>社会科</td> <td>「伝えよう！宗像・福津の世界遺産」</td> </tr> <tr> <td>共通カリキュラム 中1年</td> <td>総合的な学習の時間</td> <td>「福津の環境保全活動を調べよう」</td> </tr> <tr> <td>共通カリキュラム 中2年</td> <td>道徳</td> <td>「津屋崎千軒の街並み」</td> </tr> <tr> <td>共通カリキュラム 中3年</td> <td>社会科（公民）</td> <td>「日本の社会保障制度と福津の定礼」</td> </tr> </table>			共通カリキュラム 小6年	社会科	「伝えよう！宗像・福津の世界遺産」	共通カリキュラム 中1年	総合的な学習の時間	「福津の環境保全活動を調べよう」	共通カリキュラム 中2年	道徳	「津屋崎千軒の街並み」	共通カリキュラム 中3年	社会科（公民）	「日本の社会保障制度と福津の定礼」
共通カリキュラム 小6年	社会科	「伝えよう！宗像・福津の世界遺産」													
共通カリキュラム 中1年	総合的な学習の時間	「福津の環境保全活動を調べよう」													
共通カリキュラム 中2年	道徳	「津屋崎千軒の街並み」													
共通カリキュラム 中3年	社会科（公民）	「日本の社会保障制度と福津の定礼」													
今後の方向性等	○ふるさと学習研修会を通して、「ふるさと福津」副読本、指導案集等の活用についての理解を深め、各学校におけるふるさと学習の充実を図る。														
評価「◎」達成 「○」概ね達成 「△」未達成 「×」未実施	○														
全小中学校（10校）で実施の継続と、充実を図ることが必要である。															

平成30年度 重点事業シート

施策5. 生涯学習の充実 地域・家庭の教育力向上

事業名	カレッジ講座運営事業費 (カレッジ講座運営事業)	H30 決算	1,548,863 円
目的等	地域や自分たちの住んでいるところ、ふるさとに学び育てられ、それをみんなで教え育てていく。		
事業内容	<p>○ふるさとや地域、自分たちの住んでいるところ「郷」に学び、育てられ、また、「郷」をみんなで育てていく、福津の「ひと・もの・こと」を生かした福津市独自の総合学習システム「郷育カレッジ」の開催・運営事業。市民を受講生として年間を通じて講座を開催する。</p> <p>○受講数によって学位を認定して表彰するとともに、郷育カレッジの講師やスタッフとしての活動を促している。本年度は7月から3月までの間に99講座を開設し、開講に先立って6月には開講記念イベント「GO!いくフェスタ」をイオンモール福津で開催し、郷育カレッジの魅力を発信する。</p>		
成果目標	<ul style="list-style-type: none"> ・合計99講座を着実に開催する。 ・参加者の受講満足度を高める。 		
H30年度の成果等	<p>○郷育カレッジでは、福津の「ひと、もの、こと」を題材に、ふるさと、健康福祉、環境、生きがいなど10分野で講座を開設し、郷育の理念である「郷によって育てられ、また皆で郷を育てていく姿」が広く市民に浸透していくことを目指した。また、前年9月から講座カリキュラムを郷育カレッジ運営委員11名と編成してきた。受講生目線、市民目線を取り入れた結果、参加者の受講満足度は4.25点(5点満点)と高い数値を得られた。</p> <p>◇講座開催実績</p> <p>「郷育カレッジ講座一覧」に掲載した99講座を開催した。</p> <p>期間：平成30年7月～平成31年3月</p> <p>講座数：99講座</p> <p>登録者数：1,861人</p> <p>延べ参加者数1,836人</p> <p>◇出前講座開催実績</p> <p>地域で活動する10人以上のグループを対象に郷育カレッジの啓発を目的に行う場合とコミュニティ・スクールの一環で学校と連携する場合に講師の派遣を行った。</p> <p>期間：平成30年4月～平成31年3月</p> <p>開催数：13回、延べ参加者数：1,291人</p>		

<p>今後の方向性等</p>	<p>○郷育カレッジの特徴の1つである循環型の総合学習という点では、受講生が講師になるケースが全体の2割と現状維持にとどまっている。地域で活躍する人材の育成という意味でも、ボランティアとしてまちづくりに参画する市民を育成しながら、指導者としても活躍できる人材の育成を目指していきたい。</p> <p>○「学ぶひと」から「教えるひと」へ育てるために、様々な研修の場や取り組みを設け、学んだ経験や成果を発表する活動の充実を図っていく。</p>
<p>評価「◎」達成 「○」概ね達成 「△」未達成 「×」未実施</p>	<p>◎</p>
<p>当初予定通り、合計99の講座をすべて開催することができた。また、受講満足度も高い数値が得られた。</p>	

平成30年度 重点事業シート

施策5. 生涯学習の充実 地域・家庭の教育力向上

事業名	公民館一般管理費（公民館類似施設新築等補助事業費）	H30 決算	20,861,000 円
目的等	地域活動の拠点づくりの場所を整備拡張し、郷づくりや地域での活動が活発にできるようにする。		
事業内容	<p>○地域自治の実現に向けて、生涯学習や地域コミュニティの活動を活発化するとともに、ユニバーサルデザインの推進を図るため、自治公民館の新築及び増改築、修復等に補助金を交付する。</p> <p>○補助率は事業費の1/2、補助金の限度額は、新築2,500万円、増改築1,000万円、修復600万円、公共下水道連結工事100万円、用地購入費1,200万円。</p>		
成果目標	本年度分事業（新築2件）の着実な実行		
H30年度の成果等	<p>○平成30年度は、平成29年6月末までに協議開始した、昭和1区公民館新築工事および大石区公民館新築工事の2件に補助金を交付した。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>【昭和1区公民館】 (着工前)</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>(完了後)</p>  </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div style="text-align: center;"> <p>【大石区公民館】 (着工前)</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>(完了後)</p>  </div> </div>		

<p>今後の方向性等</p>	<p>○多数の自治公民館が建設後、かなりの年数が経過し、老朽化が激しいため、今後は建替えや改修等が多くなることや現在は自治公民館を所有していない自治会の公民館の新築も考えられるため、今後補助金の増額が見込まれる。また、毎年、自治公民館長や主事が交代する自治会も多いため、公民館類似施設新築等補助金について、十分把握されてなく、協議開始期限に間に合わない自治会も見受けられる。</p> <p>○年3回実施している公民館合同研修会（自治公民館長・主事研修）の第1回と第3回で、公民館類似施設新築等補助金の説明を実施しているが、自治公民館長や主事の交代等で、補助金があることを把握していない自治会もあるため、引き続き、第1回と第3回の研修会で説明を行う。また、説明時や問い合わせ等があるたびに、繰り返し協議開始期限等を伝える。</p>
<p>評価「◎」達成 「○」概ね達成 「△」未達成 「×」未実施</p>	<p>◎</p>
<p>本年度予定の2件の新築工事が完了し、年度内に補助金交付まで終えた。</p>	

平成30年度 重点事業シート

施策6. 子どもの体験活動の充実

事業名	アンビシャス広場推進事業費（アンビシャス広場推進事業）	H30 決算	1,300,000 円
目的等	放課後等における子どもの居場所を確保するとともに、地域住民との世代間交流を行い、子どもの健全育成を図る。		
事業内容	<p>○子どもたちが、自由に、安心して遊びや活動ができる場や機会を作るため、地域や学校が連携し、地域の公民館や学校の余裕教室等を活用して、放課後や休日の子どもの居場所づくりを進める。</p> <p>○自主性、自立性や社会性、豊かな感性や創造性、体力や運動能力を育むなど、子どもたちの健全な育成を図るためのアンビシャス広場運営業務を委託し、また、事業効果を高めるための研修会を実施するなどの支援を行う。</p>		
成果目標	子どもたちの健全育成		
H30年度の成果等	<p>○子どもたちが自由に安心して遊びや活動ができるよう、アンビシャス広場の開設を通して場所や機会を充実させることで、子どもたちの健全育成に向けた支援を行った。</p> <p>○アンビシャス広場の指導者等を対象に、子育てや子どもとのコミュニケーションの分野に長けた専門講師を招いて研修を行うことで、広場の運営が円滑に行われるよう支援した。</p> <p>○定期的に市内7ヶ所のアンビシャス広場コーディネーターを集めた連絡会を開催することで、各広場で実施する子どもたちの体験活動がより充実したものとなるよう、取り組み等についての情報交換・情報共有を行った。</p> <p>◇開所日数及び延べ参加者数</p> <p>①つやざきアンビシャス広場 開所日数：84日、延べ参加者：1,356人</p> <p>②みやじアンビシャス広場 開所日数：57日、延べ参加者：589人</p> <p>③福間南小校区アンビシャス広場 開所日数：40日、延べ参加者：725人</p> <p>④勝浦アンビシャス広場 開所日数：41日、延べ参加者：1,511人</p> <p>⑤神興東アンビシャス広場 開所日数：80日、延べ参加者：2,761人</p>		


	<p>⑥ふくまアンビシャス広場 開所日数：72日、延べ参加者：859人</p> <p>⑦神興アンビシャス広場 開所日数：71日、延べ参加者：1,277人</p>
<p>今後の 方向性等</p>	<p>○市内7ヶ所の各アンビシャス広場は、それぞれ地域と連携した特色ある活動を行っているが、他広場との連携は年4回の連絡会における情報交換・共有のみにとどまっている。各広場が横断的に連携し、子どもたちの視野を広げ、市内他地域のことを認知し興味を持つような活動が必要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コーディネーター連絡会の開催頻度の増、及び内容の充実 ・市内全広場の子どもたちが参加できる機会（イベント等）の創出
<p>評価「◎」達成 「○」概ね達成 「△」未達成 「×」未実施</p>	
<p>◎</p> <p>7広場とも、概ね当初予定通りの開所日数、延べ参加者数に達した。また、各広場のコーディネーターの連絡会議を定例化したことにより、各アンビシャス広場ごとの連携が強化できた。</p>	

平成30年度 重点事業シート

施策7. スポーツ・文化芸術活動の充実

事業名	海洋性スポーツ施設管理運営費（海洋性スポーツ事業）	H30 決算	11,751,386 円
目的等	市内小学生に、海に親しめる環境を整備するとともに、勝浦漁港の海洋資源を活用した観光イベント等を開催し、地域の活性化につなげる。		
事業内容	<p>○福津市、宗像市の児童を中心に、海に親しむ機会を作るとともに、子どもたちの健全育成を目指して、福津市、宗像市の両市が共同、連携してヨットやカヤックなどの海洋性スポーツの体験事業を実施する、勝浦浜海洋スポーツセンターの管理運営事業。</p> <p>○本年度は、同センター福津市側接道の安全確保のため、延長約75メートルのガードレール設置工事を実施するとともに、体験事業中の安全監視、救護活動のためのレスキュー艇を購入し、陸地～海上艇間の情報交換のための無線機を購入する。</p>		
成果目標	青少年の健全育成		
H30年度の成果等	<p>○小学校体験モデル事業 宗像市・福津市内の小学校11校17クラスの参加 ：延べ人数569名（宗像市308名、福津市261名） （宗像市8校：吉武小・東郷小・日の里西小・赤間西小・南郷小・玄海小・玄海東小・地島小、10クラス） （福津市3校：勝浦小・福間南小・上西郷小、7クラス）</p> <p>○青少年団体体験モデル事業 宗像市・福津市内の青少年団体5団体の参加 ：延べ人数104名（宗像市49名、福津市55名） （宗像市2団体：玄海コミュニティ、自由が丘子ども会） （福津市3団体：親子野外教室2回、アンビシャス）</p> <p>○夏休み親子ヨット教室事業 7/31、8/21の2回実施：延べ人数40名</p> <p>○OPヨット大会事業 6/23、6/24の2日間：参加人数60名</p> <p>○マリンフェスタ事業 6/30に開催予定：雨天・雷により中止</p> <p>○一般利用者受入事業 1日間実施：参加人数6名</p>		



	<div style="text-align: center;">  </div> <p style="text-align: center;">↑ 【小学校体験モデル事業の様子】</p> <p style="text-align: center;">体験内容：ヨット、カヤック、ロープワーク</p> <p>【特記事項】</p> <p>※小学生体験事業の安全管理のためゴムボート及び相互連絡用の無線機10台を購入した。</p> <p>※水上バイク乗り入れ禁止啓発のため、ガードレールを設置した。</p>
<p>今後の方向性等</p>	<p>○小学校体験モデル事業においては、参加した小学生にとってはかなり好評であるが、全ての小学校の参加には至っていない。また、授業の一環で行われており、個人によるヨット体験ができる時間はないため、カヤック体験、ヨット乗船体験の一過性の体験にとどまっている。</p> <p>○事業を推進するため直営により、勝浦浜セーリング連盟と委託契約を締結しているが、今後指定管理者による管理運営も検討しなければならない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各小学校に対し、事業の内容説明と参加を呼びかける。 ・勝浦浜海洋スポーツセンターの周知活動とOPヨット体験講座の開設。 ・管理運営に関する指定管理者制度導入の検討。
<p>評 価「◎」達成 「○」概ね達成 「△」未達成 「×」未実施</p>	<p style="text-align: center;">○</p>
<p>小学校体験モデル事業、青少年団体体験モデル事業、夏休み親子ヨット教室事業は概ね予定通りの参加者数を得た。マリンフェスタ事業は、当日雷が強くと中止せざるを得なかった。</p>	

平成30年度 重点事業シート

施策7. スポーツ・文化芸術活動の充実

事業名	図書館事業費（子ども司書養成事業）	H30 決算	77,914 円
目的等	読書活動を推進するリーダー（子ども司書）を養成する。		
事業内容	<p>○子どもの読書環境を整える取り組みの一環として、読書活動を推進するリーダーを養成する。</p> <p>○小学校4年生から6年生までの児童を対象に、読書や図書館に関する理解を深めるための講義や実習など5講座を開催し、家庭や学校、地域などで読書活動推進の一翼を担う「ふくつ子ども司書」に認定し、市立図書館や学校図書館で積極的な活動を行えるように支援する。また、昨年度までに誕生した161人の「子ども司書」に対するフォローアップ研修を実施し、子ども司書活動の充実を図る。</p>		
成果目標	子どもたちに読書や図書館に対する理解を深める。		
H30年度の成果等	<p>○「福津子ども司書養成講座」</p> <p>第1回：7月8日（日）開講式・オリエンテーション 第2回：7月15日（日）図書館のひみつ 第3回：7月21日（土）22日（日）司書の仕事体験 第4回：7月24日（火）読み聞かせ 第5回：7月27日（金）本の帯作り 第6回：7月31日（火）製本 ★認定式・発表会：8月3日（金） 今年度は17名をふくつ子ども司書に認定しました。 （これまでの累計178名）</p> <p>○「子ども司書活動支援」</p> <p>子ども司書フォローアップ講座</p> <p>①3月3日（日）わらべ歌研修 ②3月17日（日）お話会プログラミング ③3月31日（日）実演 参加者 延べ9名</p> <p>子ども司書活動日（夏冬休み開催）延べ49名参加 子ども司書のカルタ会13名参加</p>		
今後の方向性等	○ふくつ子ども司書養成講座」やその後の活動に参加する子どもたちの多くが、来館するために保護者の送迎を必要としている。そのため家族		

	<p>や家庭の事情で講座を欠席せざるをえない、参加したくても参加できない状況になったり、また習い事などの関係でどうしても参加できないというケースが多々見受けられる。</p> <p>○家庭の事情などで「子ども司書になりたい」という子どものやる気を削ぐことが無いよう、すべての講座に参加することとしている認定条件を、子どもや保護者が無理なく講座に参加、応募できるよう見直し、1人でも多くの図書館ファンを育てられるように講義内容も再検討する。</p>
<p>評価「◎」達成 「○」概ね達成 「△」未達成 「×」未実施</p>	<p>◎</p>
<p>本年度の申込者全員（17名）を子ども司書として認定することができた。</p>	

平成30年度 重点事業シート

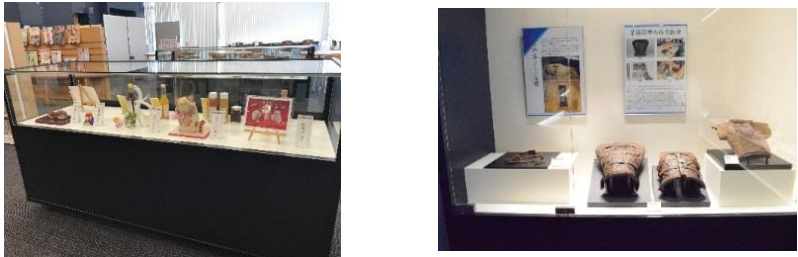
施策7. スポーツ・文化芸術活動の充実

事業名	国際交流事業費（海外表敬訪問団歓迎事業）	H30 決算	382,830 円															
目的等	国際文化交流や相互理解を深める一助となることを目的としている。																	
事業内容	○民間の国際交流団体である日韓慶福交流会は、平成10年からこれまでの間交流を継続し、毎年春には福津市から慶州市へ、秋には慶州市から福津市を訪問されている。互いの交流を深める活動をしている団体を、来福の際に市としても温かく迎え、その活動を支援する。																	
成果目標	市民の国際相互理解を深める。																	
H30年度の成果等	<p>○慶州訪問団が来福し、11月1日から4日までの日程で秋季交流会が実施された。福津市内や近隣で組まれた行程の移動手段としてバスを借り上げ、車内での飲料水や菓子、親睦会における福津会員による手料理のふるまいに使用する福津市産野菜等の食材を提供した。双方の会員が、語学学習能力を発揮したり、国民性や文化の違いなどの理解を深める一助となった。また、地場産品の提供や宮地嶽神社、カメラアステージ歴史資料館、市民文化祭の観覧などで市のPRにも繋がった。</p> <p>※11/02（金）はバス借上げの対象外。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>月日(曜)</th> <th>行</th> <th>程</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>11/01. (木)</td> <td>福津市中央公民館 == 福岡空港(BX142 便10:50着・出迎え) == 嘉穂駅前(昼食・見学) == HOTEL AZ 福岡宗廟店 == 10:00 発 11:00~12:00 13:00~15:00 16:00 着 (チェックイン) 福津市中央公民館 == HOTEL AZ 福岡宗廟店 == ぶどうの樹 マル・マーレ< 歓迎会「友情の夕べ」 > .. 16:25~16:45 17:30 発 17:50 着</td> <td></td> </tr> <tr> <td>11/02. (金)</td> <td>◇2班に分かれて行動 ・福津市内観光 (鐘屋崎千軒ほか) .. ・福岡市内観光 (福岡タワー、天神エリア、中洲川端 (増田神社、キャナルシティほか)、那珂川クルーズ、薬水園など) .. 両谷公民館< 親睦会 > ..</td> <td></td> </tr> <tr> <td>11/03. (土)</td> <td>HOTEL AZ 福岡宗廟店 == 古賀 IC == みやま柳 IC == 水鏡川観光 (川下り) == 森田旅館 (昼食) == .. 08:10 発 10:00~11:10 11:30~12:30 .. 柳川藩主立花邸「御花」・立花家資料館見学 == 筑前川昇船橋 (見学) ・大川 TERRAZZA 展示場 (組子体験) == 東郷橋 IC == 12:40~13:20 14:00~14:30 14:30~15:30 .. 古賀 IC == HOTEL AZ 福岡宗廟店 == 宗廟市「露軒」 .. 17:10 着 17:25 着 ..</td> <td></td> </tr> <tr> <td>11/04. (日)</td> <td>HOTEL AZ 福岡宗廟店 == イオンモール福津(異物・昼食) == 福津市複合文化センター カメラアステージ歴史資料館・公民館祭り (観覧) == .. 09:40 発 10:00~13:00 13:30~14:45 .. 宮地嶽神社 == 福岡空港(BX143 便19:40発・見送り) == イオンモール福津 .. 15:00~16:30 17:30~19:00 20:00 着 ..</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>●記入例/△R —— 航空機 —— 鉄道 ++++ 船~~~~ フェリー/ボート (フ)~~~~ 徒歩 □□・バス== タクシー (タ)== ケーブル・ロープウェイ・モノレール ++++ ..</p>			月日(曜)	行	程	11/01. (木)	福津市中央公民館 == 福岡空港(BX142 便10:50着・出迎え) == 嘉穂駅前(昼食・見学) == HOTEL AZ 福岡宗廟店 == 10:00 発 11:00~12:00 13:00~15:00 16:00 着 (チェックイン) 福津市中央公民館 == HOTEL AZ 福岡宗廟店 == ぶどうの樹 マル・マーレ< 歓迎会「友情の夕べ」 > .. 16:25~16:45 17:30 発 17:50 着		11/02. (金)	◇2班に分かれて行動 ・福津市内観光 (鐘屋崎千軒ほか) .. ・福岡市内観光 (福岡タワー、天神エリア、中洲川端 (増田神社、キャナルシティほか)、那珂川クルーズ、薬水園など) .. 両谷公民館< 親睦会 > ..		11/03. (土)	HOTEL AZ 福岡宗廟店 == 古賀 IC == みやま柳 IC == 水鏡川観光 (川下り) == 森田旅館 (昼食) == .. 08:10 発 10:00~11:10 11:30~12:30 .. 柳川藩主立花邸「御花」・立花家資料館見学 == 筑前川昇船橋 (見学) ・大川 TERRAZZA 展示場 (組子体験) == 東郷橋 IC == 12:40~13:20 14:00~14:30 14:30~15:30 .. 古賀 IC == HOTEL AZ 福岡宗廟店 == 宗廟市「露軒」 .. 17:10 着 17:25 着 ..		11/04. (日)	HOTEL AZ 福岡宗廟店 == イオンモール福津(異物・昼食) == 福津市複合文化センター カメラアステージ歴史資料館・公民館祭り (観覧) == .. 09:40 発 10:00~13:00 13:30~14:45 .. 宮地嶽神社 == 福岡空港(BX143 便19:40発・見送り) == イオンモール福津 .. 15:00~16:30 17:30~19:00 20:00 着 ..	
月日(曜)	行	程																
11/01. (木)	福津市中央公民館 == 福岡空港(BX142 便10:50着・出迎え) == 嘉穂駅前(昼食・見学) == HOTEL AZ 福岡宗廟店 == 10:00 発 11:00~12:00 13:00~15:00 16:00 着 (チェックイン) 福津市中央公民館 == HOTEL AZ 福岡宗廟店 == ぶどうの樹 マル・マーレ< 歓迎会「友情の夕べ」 > .. 16:25~16:45 17:30 発 17:50 着																	
11/02. (金)	◇2班に分かれて行動 ・福津市内観光 (鐘屋崎千軒ほか) .. ・福岡市内観光 (福岡タワー、天神エリア、中洲川端 (増田神社、キャナルシティほか)、那珂川クルーズ、薬水園など) .. 両谷公民館< 親睦会 > ..																	
11/03. (土)	HOTEL AZ 福岡宗廟店 == 古賀 IC == みやま柳 IC == 水鏡川観光 (川下り) == 森田旅館 (昼食) == .. 08:10 発 10:00~11:10 11:30~12:30 .. 柳川藩主立花邸「御花」・立花家資料館見学 == 筑前川昇船橋 (見学) ・大川 TERRAZZA 展示場 (組子体験) == 東郷橋 IC == 12:40~13:20 14:00~14:30 14:30~15:30 .. 古賀 IC == HOTEL AZ 福岡宗廟店 == 宗廟市「露軒」 .. 17:10 着 17:25 着 ..																	
11/04. (日)	HOTEL AZ 福岡宗廟店 == イオンモール福津(異物・昼食) == 福津市複合文化センター カメラアステージ歴史資料館・公民館祭り (観覧) == .. 09:40 発 10:00~13:00 13:30~14:45 .. 宮地嶽神社 == 福岡空港(BX143 便19:40発・見送り) == イオンモール福津 .. 15:00~16:30 17:30~19:00 20:00 着 ..																	
今後の方向性等	<p>○交流の継続及び活性化、広がりが期待される。</p> <p>○本事業は平成31年度以降は実施しない方針が示された。団体が自立性を保って活動が継続的に推進されるよう、市として支援のあり方を見極めていく。</p>																	
評価「◎」達成 「○」概ね達成 「△」未達成 「×」未実施	◎																	
民間の国際交流事業であるが、移動用バスの借り上げや福津市産の食材提供などの側面支援により、市民の国際相互理解を促進した。																		

平成30年度 重点事業シート


施策7. スポーツ・文化芸術活動の充実

事業名	複合文化センター管理運営費（複合文化センター管理運営事業）	H30 決算	116,717,576 円
目的等	津屋崎庁舎の再生整備施設として新たに複合文化センターとして、市民の生活の拠点及び賑わいを生む施設として管理運営を実施する。		
事業内容	<p>○福津市複合文化センター（文化会館、図書・歴史資料館）、愛称カメリアステージの管理運営事業。</p> <p>○基本的には指定管理方式で事業を実施するが、市立図書館と同一の図書システムを利用することや、併設する「津屋崎行政センター（市民課所管）」「企業センター（地域振興課課所管）」との共通の管理経費が存在することから、図書システム構築・運用経費、敷地内の植栽管理など一部の管理経費は指定管理業務とは分離し、市の直営で実施する。</p>		
成果目標	市民から親しまれる施設運営を行う。		
H30年度の成果等	<p>○開館から1年と9ヶ月が経ち、指定管理者の運用も順調に適切に実施されている。</p> <p>○年間の来場者数も毎月10,000人前後を保ち、にぎわいも見せている。</p> <p>○カメリアホールの運営に関しては、自主事業による演劇鑑賞会「鴉たちの行方」、落語公演「三遊亭歌之介独演会」檜舞台コンサート「OBSESSION 春休みスペシャルコンサート」などを開催し、集客アップが図られている。また、図書館エリアの運営に関しても、来場者の満足度は向上し、滞在型の図書館として人気を集めている。歴史資料館運営に関しては、歴史に詳しいスタッフを配置し、窓口における問い合わせに対しても適切に対応している。</p> <p>○開館当時からの懸案事項であった開館時間の問題に関して年間の時間帯入場者数を分析し、11時から21時であったものを、10時から20時に変更し、利用しやすい施設として評価を得ている。</p>		
			

	
<p>今後の方向性等</p>	<p>○現在は、地域の拠点として指定管理者による運営を図っており、毎月10,000人程度の入館者が訪れているが、来館者から小・中学生の利用マナーへの苦情等が多く見受けられる。</p> <p>○運用開始から1年9ヶ月が経過し、文化会館（カメラアホール）の施設を利用した自主事業をさらに充実し、集客に繋げなければならない。</p> <p>○文化会館カメラアホールにおいては、施設・設備の維持管理に注視しなければならない。</p> <p>○市内小中学校との情報共有により、カメラアステージ利用時のマナーについて徹底することが求められる。</p> <p>○管理費に見合う集客を図るため、市民が興味を引く自主事業の開催が望まれる。指定管理者との情報共有、協議を図り、よりよい運営を目指す。</p>
<p>評価「◎」達成 「○」概ね達成 「△」未達成 「×」未実施</p>	<p>◎</p>
<p>平成29年度の開館当初からの課題であった開館時間を利用者ニーズに合わせて変更した。本年度は毎月1万人を超える入館者が訪れている。</p>	

平成30年度 重点事業シート


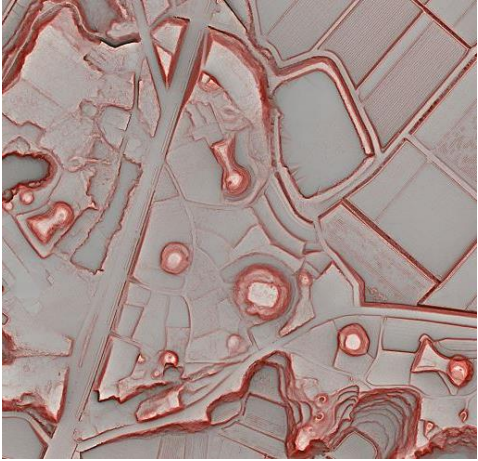
施策7. スポーツ・文化芸術活動の充実

事業名	地方創生事業費（地方創生推進事業）	H30 決算	11,036,006 円
目的等	世界遺産登録を契機に、地域の活力と賑わいのあるまちづくりを目指す。		
事業内容	○世界遺産保存管理の推進母体である保存活用協議会へ負担金を拠出し、保存管理のための推進事業を展開するとともに、地域の活力と賑わいのあるまちづくりを目指すため、情報誌等を活用したPRや展望所での観光案内を実施し、来訪者対応のための交通対策も併せて実施する。また、地域関係者などと連携して、PRイベントを開催する。		
成果目標	古墳群の来訪者数		
H30年度の成果等	<p>○世界遺産登録1周年となる平成30年度は、昨年度に引き続き古墳群展望所での無料ガイドと来訪者のアクセス確保と新規バス路線開発を兼ねて、市内各所と古墳群をつなぐ世界遺産シャトルバスの土日祝日に運行した。</p> <p>○古墳群のPRのために原動機付自転車のご当地ナンバープレートを製作した。デザインは市内中学校美術部員により、古墳群と古墳馬車、古墳キャラクターを使ったデザイン案を3案作成し、3案をポスターにしたものを市内の全小中学校の各クラスに配布してクラスごとに1案に絞り込み、一番多い支持を受けたデザインでナンバープレートを作製した。このナンバーを付けた原動機付自転車に走る広告塔として役割を期待している。</p> <p>○市から負担金を支出している「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群保存活用協議会は、福岡県・宗像市と共同して沖ノ島をはじめとする宗像大社、古墳群について保存・活用事業を実施している。7月の海の日には福岡市で世界遺産1周年記念事業の講演会とステージイベントを実施し多くの市民に世界遺産と福津・宗像の魅力をPRした。古墳群に関してはスマートホンのARアプリを開発して、古墳群で古墳が造られた当時のながめを疑似体験できるようにした。</p>		
			・古墳群 AR 画面

		 <p>・ナンバープレート</p>
<p>今後の方向性等</p>	<p>○古墳群展望所での無料ガイドについては、来訪者からも好評で展望所から津屋崎千軒の街なみ見学や宮地獄神社へと足をのばす来訪者もいたようである。世界遺産登録におけるユネスコに対する公約事項のひとつである古墳までの公共交通の充実化について、登録後からシャトルバスの運行を実施してきたが、利用者が少なかったために観光タクシーを使った事業へと移行した。</p> <p>○保存活用協議会事業で行った古墳群ARは築造当時の姿を想像し現代の景色に重ねて見られるようにしたものではあるが、スマホ環境によっては不具合が多く今後も修正をしていく必要がある。</p> <p>○新原・奴山古墳群への公共交通整備としては定時定路線のバス運行ではなく、観光タクシーのクーポン事業を実施することにより、時間やコースを限定しない自由度の高い移動手段が適していると考え。今後の新原・奴山古墳群の活発な活用には観光部局との密接な関係強化が不可欠と考える。</p>	
<p>評価「◎」達成 「○」概ね達成 「△」未達成 「×」未実施</p>		<p>△</p>
<p>世界遺産は、保護継承すべき貴重な人類の宝であるとともに、地域経済を潤す可能性を秘めた観光資源でもある。「新原・奴山古墳群」は、海への眺望景観に優れ田園風景とも見事にマッチし、悠久の時の流れを感じさせてくれる。この古墳群を国内外の方々に知っていただき、現地や市内の観光名所を訪れることで、福津ファンを増やしたいと考え、展望所に観光案内所を設置したり、シャトルバスを運行したり、古墳まつりや福岡県・宗像市と共同イベント等を開催しているが、来訪者数は減少するとともに地域も活性化していない。このような状況を踏まえ、評価は「未達成」とした。</p> <p>今後、市長部局（観光、環境、景観、公共交通等）、関係機関や市民との連携・共働を推進するとともに、歴史的・学術的にきわめて高い価値を有する古墳群を市内外の方々と共有し、「みんなで守り、伝え、次世代に継承していく」という気運を高めていく必要もある。その実現に向けて、「世界遺産保存・活用等連携会議」等を活用し効果的な施策を検討したい。</p>		

平成30年度 重点事業シート

施策7. スポーツ・文化芸術活動の充実

事業名	古墳公園建設事業費（津屋崎古墳群保存整備事業）	H30 決算	12,635,405 円
目的等	訪れる人々がその歴史的価値や重要性を再認識し、自然や歴史・文化を満喫できるようにする。		
事業内容	<p>○津屋崎古墳群整備基本計画を基に整備を進める。特に、世界遺産登録を受けた新原・奴山古墳群については、世界遺産に相応しい資産となるよう、各古墳の特性を活かし、適切な価値を伝えるための調査整備、及び来訪者の安全確保、円滑な回遊を図るための整備を実施する。</p> <p>○本年度は、新原・奴山古墳群において15号墳の保存修理に着手するとともに、新原・奴山古墳群全体の航空測量を実施し、今後の整備事業等に備える。また、大雨で被災した13号墳の災害復旧に着手し、復旧工事に伴う事前確認調査を実施した。なお、世界遺産登録後の公開活用やモニタリング等に対応するため、備品購入等を行った。</p>		
成果目標	新原・奴山古墳群の保存管理と公開活用（新原・奴山古墳群整備行動計画等に基づく史跡整備）		
H30年度の成果等	<p>○墳丘法面が崩落し、急斜面となっていた15号墳の保存修理に着手し、墳丘基礎部分の盛土を行った。新原・奴山古墳群において航空レーザ測量を実施した。全域を正確に図化するとともに、今後の整備事業等に活用できる3次元データを取得した。大雨で被災した13号墳の災害復旧工事に伴って、事前確認調査を実施した。復旧工事の設計に必要な古墳築造状況等の情報を記録した。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start;"> <div style="text-align: center;">  <p>新原・奴山 15号墳の保存修理盛土</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>航空レーザ測量成果の一部</p> </div> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 10px;">  <p>新原・奴山 13号墳の事前確認調査</p> </div>		

<p>今後の方向性等</p>	<p>○古墳群の保存修理工事が順調に進捗している一方、世界遺産として整備し、公開活用するための整備は今後の課題である。世界遺産の古墳群として相応しい整備のあり方と事業スケジュール等を検討する必要がある。</p> <p>○世界遺産として整備するためには、調査研究に基づき、価値を損なうことなく実施しなければならない。そのため、専門家の意見を参考に、文化庁や福岡県と協議しながら、計画策定を進める。</p>
<p>評価「◎」達成 「○」概ね達成 「△」未達成 「×」未実施 ◎</p>	
<p>新原・奴山古墳群は、市内外を問わず訪れる人々がその歴史的価値や重要性を再認識し、自然や歴史・文化を満喫できるように史跡地の公有化、調査研究、整備等を進めている。</p> <p>「保存管理面」では、世界遺産に相応しい眺望を目指した整備を行うことは、世界遺産であり続けるための公約事項であるとともに、来訪者への効果的な資産価値の発信ができるようになる。史跡整備にあたっては、資産の眺望や周辺景観との調和を重視し整備を行うこととしている。</p> <p>「公開活用面」では、カメラアステージ図書・歴史資料館での企画展示や歴史ボランティアの養成等に取り組み、世界遺産の情報発信や福津ふるさと学習、歴史学習の充実にも努めている。未来に繋げるための「担い手」である子どもたちが世界遺産学習等を通じ「誇り」や「豊かな心」、「郷土愛」を育むことにつながるものと期待している。</p> <p>平成30年度においても、新原・奴山古墳群の整備計画及び新原・奴山古墳群整備行動計画スケジュールに基づき、国や県と協議しながら、計画どおり史跡整備事業等を推進した。また、災害復旧にも着手することができたので評価は「達成」とした。</p>	

平成30年度 重点事業シート

施策7. スポーツ・文化芸術活動の充実

事業名	古墳公園建設事業費（古墳公園史跡等購入事業）	H30 決算	197,758,321 円																																																							
目的等	津屋崎古墳群を次世代に確実に継承する。																																																									
事業内容	○国指定史跡「津屋崎古墳群」を保存・管理するために、国県の補助を受けて公有化を行う。特に世界遺産登録されている「新原・奴山古墳群」につきましては、世界遺産登録の公約として早期公有化が求められている。																																																									
成果目標	新原・奴山古墳群の公有化（保存管理と公開活用）																																																									
H30年度の成果等	○平成29年度に公有化予定としていた事業所等について、事前交渉が難航し、事業完了が見込めないことから、公有化予定物件を変更し、平成30年度へ繰越事業とした。その結果、平成30年度は33筆の公有化を行った。																																																									
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>購入年度</th> <th>購入面積 (㎡)</th> <th>累計面積 (㎡)</th> <th>進捗率 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>平成18年度</td><td>5,016</td><td>5,016</td><td>3%</td></tr> <tr><td>平成19年度</td><td>5,476</td><td>10,492</td><td>6%</td></tr> <tr><td>平成20年度</td><td>7,038</td><td>17,530</td><td>9%</td></tr> <tr><td>平成21年度</td><td>4,538</td><td>22,068</td><td>12%</td></tr> <tr><td>平成22年度</td><td>36,240</td><td>58,308</td><td>30%</td></tr> <tr><td>平成23年度</td><td>10,735</td><td>69,043</td><td>36%</td></tr> <tr><td>平成24年度</td><td>22,390</td><td>91,433</td><td>47%</td></tr> <tr><td>平成25年度</td><td>11,101</td><td>102,534</td><td>53%</td></tr> <tr><td>平成26年度</td><td>1,527</td><td>104,061</td><td>53%</td></tr> <tr><td>平成27年度</td><td>1,022</td><td>105,083</td><td>54%</td></tr> <tr><td>平成28年度</td><td>0</td><td>105,083</td><td>54%</td></tr> <tr><td>平成29年度</td><td>0</td><td>105,083</td><td>54%</td></tr> <tr><td>平成30年度</td><td>22,973</td><td>128,056</td><td>66%</td></tr> </tbody> </table>	購入年度	購入面積 (㎡)	累計面積 (㎡)	進捗率 (%)	平成18年度	5,016	5,016	3%	平成19年度	5,476	10,492	6%	平成20年度	7,038	17,530	9%	平成21年度	4,538	22,068	12%	平成22年度	36,240	58,308	30%	平成23年度	10,735	69,043	36%	平成24年度	22,390	91,433	47%	平成25年度	11,101	102,534	53%	平成26年度	1,527	104,061	53%	平成27年度	1,022	105,083	54%	平成28年度	0	105,083	54%	平成29年度	0	105,083	54%	平成30年度	22,973	128,056	66%	
購入年度	購入面積 (㎡)	累計面積 (㎡)	進捗率 (%)																																																							
平成18年度	5,016	5,016	3%																																																							
平成19年度	5,476	10,492	6%																																																							
平成20年度	7,038	17,530	9%																																																							
平成21年度	4,538	22,068	12%																																																							
平成22年度	36,240	58,308	30%																																																							
平成23年度	10,735	69,043	36%																																																							
平成24年度	22,390	91,433	47%																																																							
平成25年度	11,101	102,534	53%																																																							
平成26年度	1,527	104,061	53%																																																							
平成27年度	1,022	105,083	54%																																																							
平成28年度	0	105,083	54%																																																							
平成29年度	0	105,083	54%																																																							
平成30年度	22,973	128,056	66%																																																							
	<p style="text-align: center;">津屋崎古墳群 公有化進捗状況</p> 																																																									

<p>今後の方向性等</p>	<p>○新原・奴山古墳群の史跡地内にある産業廃棄物中間処理施設及びカントリーエレベーターは、大規模で特質性のある物件であり、補償調査や交渉に時間を要するが、世界遺産登録の公約として早期公有化が求められている。平成 29 年 2 月にイコモスへ提出した「新原・奴山古墳群整備行動計画スケジュール」において、民間事業施設の買上げ・撤去を令和 2 年度末、大型農業施設の買上げ・撤去を令和 3 年度末までとしており、遵守できない場合、危機遺産や世界遺産からの除外といった可能性がある。その結果、市に対する国からの信用を失う結果となり、日本国に対する世界からの信用も失いかねないため、計画的かつ早期公有化が不可欠である。</p> <p>○外部の研修等で専門的知識を習得すると共に、専門家の指導を必要に応じて受けながら、地権者へ真摯にお願いしながら公有化を進める。</p>
<p>評 価「◎」達成 「○」概ね達成 「△」未達成 「×」未実施</p>	<p>○</p>
<p>市は、平成 18 年度から国指定史跡地の民有地を購入し、計画的に史跡地の整備等を進めている。</p> <p>平成 30 年度は、国・県と協議のうえ、平成 29 年度の公有化対象物件を急遽変更し公有化事業を継続することとした。1 年間という短期間にもかかわらず、組織一丸となって用地交渉に鋭意取り組み、20 名の地権者から民有地（33 筆、22,973 m²）を購入することができた。また、平成 29 年度に不調となった民間事業所との事前交渉も進展している状況にある。しかしながら、当初計画では、地権者 25 名から 39 筆（27,646 m²）の購入計画を立てていたもので、実績（8 割以上達成）から判断し「概ね達成」と評価した。</p> <p>なお、津屋崎古墳群における平成 31 年 3 月末現在の購入計画面積（宗教法人の所有地を含む。）は約 19.6ha で、これまで約 12.8ha の民有地を購入した。このうち「新原・奴山古墳群」については、購入計画面積約 12.3ha のうち約 10.0ha を購入し、公有化の進捗率は 81.6%となっている。</p>	

4 点検・評価に対する学識経験者からの意見

上記の「点検及び評価」の報告書が、「1. 教育委員会の活動状況」及び「2. 事務事業の取組状況と点検及び評価」の2部構成になっているので、それぞれに分けて、意見を述べることにする。

1. 教育委員会の活動状況について

○教育委員会の会議の日数、協議・報告内容等の状況を見る限り、大変熱心に行われている。また、明記されていないが、学校訪問や研究発表会、各種行事への出席も数多くなされ、教育現場の実態把握や情報収集に努められている。このことは高く評価できる。今後も、地域や教育現場の実情に応じた施策が進められるように教育現場の実態把握とともに教育現場や関係者との意見交流に努めて頂きたい。

○開かれた教育委員会活動の一環の情報の発信については、ウェブサイト上で、教育委員会の傍聴制度、開催日時、場所、会議録等、教育委員会の情報の掲載に努めたり、「福津市教育プラン」のドリームプランとして概要版を掲載したりなど、広く市民に活動状況を分かりやすく理解して頂くような努力が見られる。本年度の傍聴者の状況も知りたいところであるが、市民の教育に対する関心は大変高く、よい傾向である。今後も継続して情報の発信等に努めて頂きたい。

2. 教育施策の推進状況について

福津市教育委員会は、毎年、「福津市教育ドリームプラン」をさだめ、「夢や希望を持ち、健やかに育つ子どもの育成をめざし、「行きたい学校、帰りたい家庭、すみたい地域」を基本理念としながら教育行政として、7施策・37の取組をあげ、総合的に進めている。そして各主要施策ごとに教育施策の推進状況に関する点検及び評価を行っている。

まず、はじめに全般的な評価として、各教育施策について、「事業の目的、事業内容、成果目標」「1年間の施策の主な取組状況（成果）」「今後の取組の方向性」「評価」に分けて述べられていることについて、高く評価したい。これまで教育行政でよく見られたのが、各具体的施策そのものが目標化されていることが多く、そのために毎年同じ施策の繰り返しが展開されているということである。しかし、福津市の各教育施策は、「各施策の目的・ねらい」に基づいて、具体的な取組の計画し、実行し、点検・評価して、次年度の活動目標（方向性）につなげている。具体的には、4月から計画にそって進められ、途中、学校訪問等でチェックをしながら、2月の「コミュニティ・スクール報告会」で終わる、といった「PDCAのマネジメントサイクル化」ができてきているということである。最終報告会の出席者についても、教育委員会事務局、市長部局だけでなく、各学校の学校運営協議会委員も参加しており、学校・家庭・地域の連携・共働による福津市の教育の推進の姿が見られる。大変よい姿である。今後はさらに多くの市民に広げていく工夫が必要になるであろう。

次に、施策ごとに具体的な主要施策のいくつかについて、意見を述べることにする。

施策1；コミュニティ・スクールの発展

- CS全校導入8年目を迎え、学校・家庭・地域が連携・共働し、社会（福津市）総がかりで教育が進められるよう様々な取組が行われている。本年度から発展期として、学校運営協議会を中心としたしくみから、学校運営協議会と地域学校協働本部との両輪によるしくみを構築し、学校と地域の関わりの機能化や持続性を図り、特色ある共育活動を推進している。そして、地域コーディネーターを配置し、その推進を進めている。その成果の一つとして、勝浦地域学校協働本部の取組が文部科学大臣表彰を受けたことは、素晴らしいことである。今後は、持続可能な推進本部体制の構築を期待したい。コミュニティ・スクール研究発表会では、各中学校区で順番に行われるものであるが、一昨年度で終わっており、本年度は実施せず、来年度は福間東中学校区の発表会である。CSの発展期として特色ある取組を期待したい。より多くの市民に広がるような取組になるよう工夫してほしい。

施策2；学力向上の推進

- 市内全ての学校で、QUテストを実施し、その活用のために校内QU研修会・QU活用担当者研修会を開催された。そして、学級担任及び教科担任等が学級集団状況や児童生徒の課題を客観的に分析し、親和的な学級集団形成のために活用されている。ただし、QUテストの実施については達成をしているが、活用をした結果、学級集団の状況がどのように改善されたのかを明記してほしい。

施策3；学校における教育環境の整備

- 児童生徒の不登校やいじめ等の生徒指導上の諸問題は、喫緊の課題である。そういう意味からも、各学校において教育相談体制の充実及び強化を図るために、教育相談員、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等の専門スタッフの配置は不可欠である。そして、このような専門スタッフと校内の教員スタッフとがパートナー関係を築きながら、チーム学校として機能するようにマネジメントすることが求められる。そういう視点から、年度初めの「いじめ・不登校等支援担当者連絡会」で支援ネットワークの確認を行ったり、定例会議を毎月実施し、一体となった児童生徒の安全確保や問題行動の防止に取り組んだりしたことは大変価値がある。今後も校内スタッフと専門スタッフが一枚岩になって子どもたちへの指導・援助を進められることを期待したい。
- 現在、学校現場では個別の支援を要する子どもの増加への対応は、喫緊の課題である。そういう意味からも指導員・支援員等の配置は不可欠である。本年度は、特別支援教育支援員の配置を10名程度増やし、充実を図っている。今後も必要な支援員数を確保し配置するとともに、特別支援教育コーディネーターを中心に、学校内における教職員と支援員とのパートナーシップの構築や専門性の向上、学校における相談・支援機能の充実を図る必要がある。
- 学校のICT環境の整備し、子どもたちの情報活用能力を身につけることは、これからの教育の中では重要なことである。福津市の情報化推進計画に基づいたICT学習環境を整えてほしいと思います。
- 学校の施設整備（給食施設整備、学校の整備改修等）については、特に福間南小、福間小、

福間中においては、児童数の増加に対して、早急な対応がなされていること、評価に値する。
今後も児童の増加が見込まれているようである。早急かつ丁寧な対応が必要であろう。

施策4；今日的課題に対応した教育の充実

- 福津を愛し、地域との関わり貢献する児童生徒を育成するために、副読本「ふるさと福津」を生かした学習の充実は必要不可欠であると考え。コミュニティ・スクールの推進と関わって、地域連携・協働カリキュラムの一つにこの副読本を位置づけて、推進していくことが効果的であると考え。

施設5；生涯学習の充実、地域・家庭の教育力向上

- 「郷育カレッジ」については、福津市の特色ある事業の一つであり、99講座を開催し、多くの方の参加を得、受講満足度も高い数値が得られている。関係者の取組の頑張りの賜物である。ある校区では、地域コーディネーターを中心に学校運営協議会（コミュニティ・スクール）と連携をさせながら進められるようにしていく必要がある。

施設6；子どもの体験活動の充実

- コミュニティ・スクールの地域の取組の一つとして「通学合宿」「アンビシャス広場」「子ども会の活動」等の充実が見られる。アンビシャス広場については市内7カ所で進められ、多くの子どもたちが集まり、子どもの豊かな体験活動ができている。コーディネーター連絡会を実施し、情報交換や情報共有をしながら進められている。

施設7；スポーツ・文化芸術活動の充実

- スポーツ関係では、海洋性スポーツ事業については、福津の地域性を活かした事業として素晴らしいと考える。概ね予定どおりの参加者数を得ているが、まだ学校によって格差が生じているようなのでさらなる啓発活動が必要である。
- 子ども司書養成事業については、毎年継続されて、子ども司書に認定された数が本年度17名、累計で178名になっている。今後も子ども司書活動の充実を図って頂きたい。
- 国際交流事業（海外表敬訪問団歓迎事業）や複合文化センター管理運営事業等についても丁寧に進められている。
- 地方創生推進事業としては、世界遺産登録を契機にして、地域の活力と賑わいのあるまちづくりのために、様々な観光案内を工夫し、来訪者を増やす取組を進められているが、逆に減少している状況である。一朝一夕にはいかないと思うが、いろいろな関係機関との連携を図りながら進めていく必要がある。

福岡教育大学教授 伊藤 克治 氏からの意見

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の規定に基づき、福津市教育委員会が取りまとめた「福津市教育委員会の事務に関する点検・評価報告書（平成30年度事業）」について意見を述べる。

I 福津市教育委員会の事務に関する点検・評価について

平成29年度に引き続き、教育委員会の事務について、主に「福津市ドリームプラン」に関する点検及び評価を行っている。取組状況については、23の重点事業シートにまとめており、各シートでは、目的、事業内容、成果目標、当該年度の成果等、今後の方向性等を簡潔にまとめ、「◎（達成）」、「○（概ね達成）」、「△（未達成）」、「×（未実施）」の4段階で自己評価している。この中で、可能なものは数値（アウトプット）を示した上で、成果（アウトカム）まで評価する形式になっている。このように、評価の客観性・信頼性の担保と、公表される市民に向けての分かりやすさに努めており、市民目線で取り組む姿勢は高く評価できる。なお、昨年度も意見書で述べたが、支援等に関わる事業は事前に数値が予測できない、あるいは想定外のことが起こるなど、数値目標が馴染まないものもある。場合によっては、評価のために無理に事業を行うことになる危険性が可能性もあるため、事業の性質に応じて、実施に無理がなく、かつ、検証しやすいような目標設定が必要であると考えられる。

また、前年度の評価結果も踏まえて、本年度の事業ではどのように改善されたか、あるいは拡大／深化したかについて検証し、実効性のあるPDCAサイクルを継続することが望ましい。特に、単年度で完結しない事業については、複数年度にわたるPDCAサイクルが必要になるものと思われる。

II 「教育委員会の活動状況」について

法改正に伴って平成27年度から設置された「総合教育会議」は、平成30年度は3回開催されるとともに、教育委員会会議は例会12回と臨時会2回が開かれ、計37件の議案が審議されている。その議事録については、教育委員会のホームページで公表しており、適切かつ透明性の高い活動がされているものと評価できる。

III 「事務事業の取組状況と点検及び評価」について

福津市のコミュニティ・スクール（CS）は、平成30年度は全校導入から8年目に入っている。これまでの成果を踏まえ、地域学校協働本部とコーディネーターの配置により、学校運営協議会での協議において実施することになった様々な事業が、共働あるいは共働責任分担方式で進められている。このような実施形式をもつ事業は、福津市での取り組みの充実だけでなく、他地域の様々な学校関係者等からの視察があるなど、モデル的事业にもなっており、高く評価できる。引き続き、様々な「人・もの・こと」のつながりを強めてCSを積極的に推進すること

が期待される。一方、OECD 国際教員指導環境調査 (TALIS 2018) においては、日本の教員の仕事時間は参加国中 (48 か国・地域) で最も長く、人材不足感も大きいことが課題として挙げられている。したがって、CS の充実、子供の育成と地域の活性化のみならず、教員の働き方改革にもつなげていくことに留意されたい。以下に、個別の重点シートの記載内容に関する意見を述べる。

- 「コミュニティ・スクール推進事業費」において、市内全小中学校に地域学校協働本部の設置と地域コーディネーターを配置したことは特筆に値する。「今後の方向性等」に書かれているように、今後はそのしくみを実効性を上げるような取り組みが期待される。これに関連して、福津市内では郷育推進委員 (社会教育委員) が社会教育分野で活動しているので、地域コーディネーターと郷育推進委員が情報共有をすることで、お互いの活動がさらに広まり、深まることが期待される。
- いじめや不登校などの相談件数の増加に対応して、連絡会や支援会議が開かれていることは評価できる。これらの会議を踏まえた対応の実働性を高めるため、スクールカウンセラー (SC) やスクールソーシャルワーカー (SSW) の配置には、積極的に取り組んでいただきたい。なお、福津市では親和的な学級集団作りに資する Q-U アンケートが実施されているので、この結果を SC・SSW とも共有し、いじめや不登校等になるべく早期に対応することが望まれる。
- TALIS 2018 結果では、日本では ICT 活用の取り組みが十分でないことが課題として挙げられている。文科省では教育の情報化について、財政支援や研修等の充実など、様々な取り組みが行われているが、福津市で「福津市教育の情報化推進計画」が策定され、さらに前倒しで電子黒板が導入されていることは高く評価できる。引き続き、計画に基づいて小学校と中学校の ICT 学習環境の整備が進められることが望まれる。同時に、その ICT 環境を効果的に活用するための研修会や成果の普及・共有が必要であると考えられる。
- 福間中学校区の児童生徒数の急増に対応した学校施設の整備は喫緊の課題である。他の学校も含めた老朽化対策も考慮しながら、計画的な校舎改修・増築・新築の総合的な対応が必要である。今後の児童生徒数の増加を想定しながら、計画的な対応が進められていることは評価できる。しかし、高額な予算が必要であることから、教育委員会だけでは対応できないため、市長部局との一層の連携の下で迅速に対応することが望まれる。なお、神興小学校の児童数は微減している状況で、老朽化対策と有効活用の視点で交流センター整備を行っていることは、福津市の CS 推進の観点からも高く評価される。
- 「カレッジ講座運営事業」では、例年、受講者の高い満足度を維持していることは高く評価できる。それだけに、成果目標としては「参加者の受講満足度を高める」というよりも、「参加者の高い受講満足度 (数値を挙げるなら、例えば 4.0) を維持する」方が望ましいと考える。
- 自治公民館の新築や増改築、改修のための補助金が措置されていることは、地域活動の拠点機能を整備するという点から重要であるが、災害時の避難拠点の整備にもつながることから、重要な事業である。引き続き、行政からの事業の周知に注力されたい。
- アンビシャス広場、海洋性スポーツなどの子供の様々な体験活動を支援していることは評価

できる。健全育成を成果目標に据えるなら、事業実施後の成果（参加した子供や関わった大人のアンケート等）をもとに、その成果とその価値をしっかりと広報することが必要だと思われる。なお、海洋スポーツ事業は安全性の確保が大前提であるため、安全対策にも必要な予算が措置されていることは評価できる。

○先に公表された OECD の「生徒の学習到達度調査 2018 年調査（PISA2018）」によれば、読解力に課題があることが明らかになっている。ただし、日本の生徒は「読書は、大好きな趣味の一つだ」と答える生徒の割合が OECD 平均よりも高く、さらに、こうした生徒ほど読解力の得点が高い傾向にあることが分かっている。それだけに、福津市の「子ども司書育成事業」は読書好きな子供を増やすために価値のある事業といえる。さらなる充実・拡大を期待したい。

○スポーツ・文化芸術活動の充実として古墳群の PR や整備をしていることは、福津市の観光振興や社会教育・学校教育の質向上につながることを期待される。このような視点から、これまでの取り組みの成果と課題を踏まえ、今後、有効に活用されることが期待される。

IV 評価についての総括等

全般的に丁寧な自己評価がされており、今後の方向性等も適切に示されている。上記の意見を踏まえて必要に応じた改善を行い、引き続き、このような市民目線の評価を継続することが望まれる。なお、現代社会の学校教育を取り巻く課題は複雑化・複合化していることから、様々な関係の部署との緊密な連携の下で効率的・効果的な取り組みが実施されることが大切である。

本年度から始まった新しい「教育総合計画」「福津市ドリームプラン」の下、福津市の特色・強みである CS の充実・深化により、変化の激しい 21 世紀社会をたくましく生き抜く子供たちが育つと共に、福津市がさらに活性化することを期待している。

本意見書は、福津市教育委員会平成 30 年度事業の「事務に関する点検・評価報告書」の重点シートについて、意見を申し述べるものである。事務全体に関する評価、及び各施策に対する所見をそれぞれ整理する。

1. 事務全体に関する評価

福津市の事務事業においては、全体的におおむね成果を達成できているものと評される。特に、地域に関する教育の充実、市民への生涯教育や体験活動の充実等の事業が成果をあげている。一方で、学校教育をはじめとする教育環境の整備、子どもをとりまく現代的課題において、一部未達成の課題もある。子どもをとりまく現代的課題においては喫緊の課題もあるが、継続的な活動を要するものがほとんどである。早急な結果を求めるではなく、将来を見通して支援を継続、充実させていくように関連機関と連携し取り組んでいただきたい。

さらに、「重点事業シート」において、今年度の成果及び今後の方向性に加え、「昨年度からの課題」を提示することを提案する。昨年度から継続している事業や関連している事業においては、課題を踏襲することで、改善された点、解決できなかった点を整理することができ、事業の客観的な評価と来年度に向けた発展的な課題の提案につながると考えられる。

2. 各事業に対する所見

【施策 1. コミュニティ・スクールの発展】

地域学校協働本部の設置及び、地域学校協働活動推進員の配置は今後のコミュニティ・スクールを基盤とする教育活動の充実につながることを期待できる。継続的に推進員、学校教員、児童・生徒への聞き取りや実態を把握し、効果的な運用を進めていただきたい。

【施策 3. 学校における教育環境の整備】

小学校、中学校における教育相談体制の充実強化について、特に子どものいじめ、不登校、への対応、子どもへの虐待や貧困問題の対応は各ケースに沿った支援が必要である。これらの課題は、児童・生徒自身の将来に対する期待や生活を設計し運営する能力にも影響する。負の連鎖を断ち切るためにも支援の充実が喫緊の課題であると考えられる。人的、経済的リソースを多大に必要とするが、これらの問題の解決を先送りにすることは、当事者の教育機会を剥奪することとなり、さらに将来に課題を残すこととなる。

続いて学校教育現場における ICT 教育において、電子黒板の設置やそれを使用した授業実践など、着実に進めることができている面は評価したい。しかし、児童・生徒自身が ICT 技術そのものに触れることのできる環境整備が必要である。スマートメディアやゲーム機をめぐるトラブルは低年齢化の一途をたどっている。犯罪に巻き込まれるケースやいじめだけではなく、消費者トラブルも発生していることについて、家庭や教育現場では実態や課題を把握できていない現状も見受けられる。パソコンやタブレットといった実際のメディアを忌避するのではな

く、それらの使い方やルールを実践的に学ぶ機会が必要である。

学校の教室の増設や給食室の増強などにおいては、今後の児童数及び生徒数の増加に対応し緊急的に実施しなければならない課題であると考え。施設設備の見直しに当たっては、多様な児童・生徒の背景に配慮したユニバーサルデザインの導入、児童・生徒同士の体験的な活動が実践しやすい教育環境の整備を願いたい。その設計や企画において子どもたちの参画を促せるよう教育現場との連携を期待する。

【施策4. 今日の課題に対応した教育の充実】

「ふるさと福津」について、年間指導計画への位置づけ、学習の実践について、郷土を理解し、愛着を育てるという点において、実践的な学びが展開されていることは評価できる。教育内容の充実に向けて、他教科との横断的な指導や持続可能性と関連付けた指導が効果を上げられると考える。例えば「生活科」では自分が育まれた地域への理解や、「家庭科」においては居住環境としての地域、地域住民と家族とのかかわりなどが取り扱われている。さらに持続可能性と関連付けることによって、地域の将来を考え、その運営に参画しようとする意欲が高められることが期待できる。

【施策5. 生涯学習の充実 地域・家庭の教育力向上】

「郷育カレッジ」では、多岐にわたるテーマの講座が実践され、満足度が高い傾向にある。市民の生涯学習の機会と内容の充実が達成されていると考える。さらに発展させるためには、「教えるひと」を単に情報を伝達する人という位置づけではなく、学びの場を運営したり、コーディネートしたりする人というファシリテーターのような役割を含ませることで、グループで講師を担うなど、個人の負担を軽減することにもつながると考える。

【施策6. 子どもの体験活動の充実】

子どもの居場所づくりとしてアンビシャス広場の運営について、コーディネーターの連絡会議が定例化されている点は昨年度からの改善点であると考え。継続的に取り組みを充実させていきたい。

【施策7. スポーツ・文化芸術活動の充実】

子ども司書の養成について、市民の共有財産を大切にする心や一市民として社会参画する意欲の育成につながる点で有意義な活動であると考え。図書館の運営という視点だけでなく、市政への参画といった視点から本事業の効果を検討していきたい。若年者の社会参画については、成年年齢引下げの議論と絡んで重視される傾向にある。本事業の意義を対外的に示すうえで効果があると考え。